

さつぽろ菊まつり

二十年のあゆみ

■さつぽろ菊まつり二十年のあゆみ

## 目次

さつぽろ菊まつり二十年を顧みて……………板垣武四……………21
さつぽろ菊まつり記念誌発刊に寄せて…岩田徳弥……………22
写真が語る／歩みつづけて二十年……………2
さつぽろ菊まつり二十年……………23
座談会さつぽろ菊まつり二十年のあゆみ……………33
資料……………45
年譜……………58
あとがき……………寺島伸治……………60

さつぽろ菊まつり

二十年のあゆみ

# 菊薫る



'81さっぽろ菊まつり



テープカット/'81さっぽろ菊まつり



'79さつほろ菊まつり



菊と琴/'78さつほろ菊まつり



開会式/'81さつほろ菊まつり

# 魅了



(上から)  
テープカットをまちかねて ('79)  
押すな押すなの大盛況 ('80)  
香気と気品の満ちた会場 ('80)



(上から)  
アブストラクトな作品 ('79)  
華麗な菊花像 ('79) や宇宙戦艦ヤマト ('78) も登場  
胸うつ作者の丹精 ('79)

# 菊花の心を



養護施設、老人ホームなどへプレゼント（'81）

文部大臣賞

金賞首席



市民へのプレゼントにミスさつほろも一役（'79）

よろこび



丹精がみのり晴れの受賞('81)



文部大臣賞



生きがいでした菊づくり('80)



市立伏見中学校園芸クラブも  
金賞2、銅賞2の栄冠('81)

# さらに向上



懇親をかねた反省会。苦心談、自慢話、失敗談に花が咲く（'81）



大盛況に実行委員もホッとひと息（'81）

# 菊づくり

《菊と人の対話》



# 二十年のあゆみ

第1回さつぼろ菊花展 まさけの昔の感



昭和38年／大通7丁目



'81さつぼろ菊まつり／地下街



第2回さつぼろ菊花展  
菊人形も登場／昭和39年

第4回さつぼろ菊花展  
当時はビニールのカマボコ小屋（北農式）／昭和41年



第4回さつぼろ菊花展  
ずらり並んだ賞品



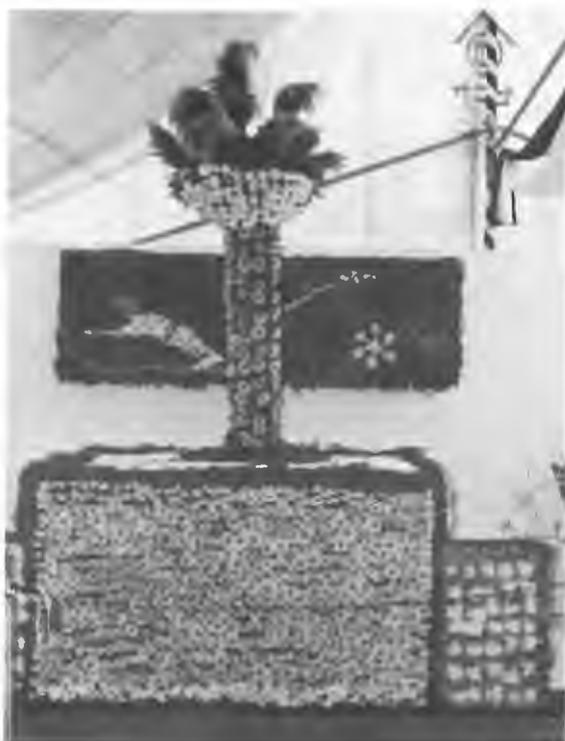
第5回さつぼろ菊まつり  
この年から名称がかわる／昭和42年





北海道百年・札幌創建百年記念祝賀特別展示







第6回さっぽろ菊まつり／昭和43年



大通会場最後の菊まつり

第11回／昭和48年

# 尽きぬ思い出 大通会場



第4回/昭和41年



第2回/昭和39年



第8回/昭和45年



第8回/昭和45年





## 菊まつり地下街へ

第12回／昭和49年



## '75さつほろ菊まつり

この年から北海道園芸会菊花会が参加  
名称の回数を西暦にかえる／第13回・昭和50年

人気をよんだ菊花像





# 市民とともに20年

'82さつぼろ菊まつり



テープカットも晴れやかに



菊花と市民の交流を祝う寺島伸治札幌市経済局長



いっそうの隆盛を期す岩田徳弥実行委員会会長



# が香る '82 さつぼろ菊まつり

10月30日



'82さつぼろ菊まつり審査委員



なかには審査委員も見ほれる作品が

PR



紙面を賑わしたさっぽろ菊まつりの新聞記事



いくらつくってもすくなくなつたしあり



記念スタンプも好評



大通会場では入場券を発行

**第5回 さっぽろ菊まつり 入場協賛**

とこ 10月29日→11月5日まで 午前9時より午後6時まで  
大通7丁目広場 ただし5日は午前9時より午後5時まで

■札幌市民憲章

★  
★  
★  
★

さっぽろ菊まつり実行委員会

文部、農林、運輸大臣賞受賞に輝く  
'72 第10回

**さっぽろ菊まつり**

菊花像館 此時、日中友好の橋、SL機関車 みなしご  
ハッチの大菊花像のほか葉の芸術作品の展示

菊花展館 大輪・秋仕立・松竹・盆巻など約1,500点を  
展示

●期間 10月28日 土 正午・11月4日 土 午前9時 午後6時 ●会場 大通西8丁目

さっぽろ菊まつり実行委員会

**第9回 さっぽろ菊まつり**

入場券

さっぽろ菊まつり実行委員会



## さつぽろ菊まつり 二十年を顧みて

札幌市長 板垣武四

昭和三十八年、わずか四百五十点の出品数でスタートしたさつぽろ菊まつりも、今や千二百点を超える出品があり、道内有数の菊まつりに発展いたしました。

市民の菊に対する関心と愛情を深め、また、菊花の観賞を通じて文化・教養を高めることを目的としたのがこの菊まつりの起源でありました。

爾来、二十年、さまざまな困難をのり越えてこれまでに発展しましたかげには、市民各層の協力はもとより菊愛好者、地下街関係者、報道機関など、多くの方々の支持があったからこそでした。

ここに深く感謝申し上げます。

二十年の大きな節目を迎えるにあたり、記念行事の一端として本誌を発刊するに至りました。

今後の菊まつりの発展の一助になり得れば幸いです。存じます。



## さっぽろ菊まつり 記念誌発刊に寄せて

'82 さっぽろ菊まつり実行委員会  
会長 岩田 徳 弥

このたびのさっぽろ菊まつり二十年記念誌の発刊にあたり、一言お祝い申し上げます。

昭和二十八年、「第一回さっぽろ菊まつり」が開催されました。から今年で第二十回を迎えるに至りました。

毎年、この菊まつりにあわせて菊を咲かせるよう努力しております作者の皆様、ならびにまつり関係者に対し心から敬意を表する次第であります。

さっぽろ菊まつりも、札幌市の四大まつりの一つとして市民に愛され、昨年の観客数は百四十万人を数えるまでに成長いたしました。

このことは、関係者のひとりとして大きな喜びであります。

ここに二十年という節目を迎え、いっそう市民に愛され親しまれるまつりとなるよう、最善の努力を傾注する決意でございます。

さっぽろ菊まつり二十年



# 『さっぽろ菊まつり』誕生の背景と胎動

昭和二十年八月十五日、わが国の無条件降伏により、第二次世界大戦は物心両

面にはかり知れない戦禍を残して終結した。

荒廃した狭隘な国土にひしめき飢餓状態におちいった国民は、激変する国情や思潮のなかで、深刻な受難時代をくぐりぬげなければならなかった。だが、新生日本はいち早く混乱から復興への道をあゆみ、二十一年の米よこせデモから十年を経た三十一年、『もはや戦後ではない』が流行語となった。三十九年十月にひらかれた東京オリンピックは、日本の完全な復興と国際社会への復帰を内外へ誇示したものとさえいえる。

これよりさき、青函海底トンネルの調査坑着工や、第二期北海道総合開発計画の発足した三十八年、札幌市民はさわやかな新聞記事に心をなごませた。

『菊作りを一本化 菊花展を秋の名物に』（北海タイムス／昭和38・4・5）という見出しで報じられたこの記事は、『さっぽろ菊まつり』誕生の胎動をつぎのように伝えている。

市民がこぞって菊を観賞しようという仮称『札幌市菊花展』が、今秋から催される。いままでばらばらだった市内外の菊作りの人々が歩調を合わせるようになったため、札幌市観光課は札幌の秋の名物に仕上げたいと構想を練り始めた。

札幌を中心とする菊の愛好者は園芸ブームに乗ってめっきりふえている。グループ活動をしているところだけでも、四十八年の歴史を誇る北海道菊花協賛会をはじめ、札幌市菊花同好会、札幌菊花芸術研究会、月寒菊花同好会、琴似菊花同好会、厚別菊花同好会がある。会員も市内をはじめ岩内、千歳、岩見沢、室蘭などから参加、ざっと七、八百人に上る。

これらのグループはそれぞれ菊花展を開いているが、メンバーは二、三の会に重複して入会している例が少なくない。また、展覧会も貧弱なものが多かった。札幌市観光課はこれらのグループを一本

にまとめ、スケールの大きい菊花展にする案を立て、三日午後、各グループと打ち合わせた。この結果『仮称札幌市菊花展は各グループが市と共通して開き、盛大なものにする』ことに話がまとまった。全市的なスケールの菊花展が開かれるのは、道内では北見市に次いで二番目。

市観光課も菊花展に五十万円の補助金を出す考え。会期は十一月三日の文化の日を中心に、一週間から十日間を予定している。会場は屋内にすれば管理面、大通広場だと霜の心配があるので未定だが、総額約二百万円の一大展覧会にする。

同課は『復古調という意味でなく、青少年の情操教育がねらいです。将来は菊を使った札幌の観光名物にしたい』といっている。

のちに、ライラックまつり、さっぽろ夏まつり、さっぽろ雪まつりとともに、道都札幌の四大まつりにかぞえられる『さっぽろ菊まつり』誕生の背景と経緯が、興味深くうかがわれる。

札幌菊花同好会 日本人は花を好む。とりわけ菊花は、その誕生が布石 気品ある容姿とふくいくたる香りが多くの人に愛され親しまれ、日本の国花といえよう。その時代や階層にとらわれず、全国各地に菊づくりを楽しむ人びとの姿がみうけられる。戦中の暗黒時代にも、菊づくりの心安らぎをもとめた人は少なくない。

札幌市内でも、それぞれの地域や職域に、熱心な菊づくり愛好者やそのグループが数多くみうけられる。ことに昭和三十年代は、一種のブームを思わせるほどの流行ぶりだった。

昭和三十五年十一月二十一日、札幌菊花同好会（名誉会長岩田徳治・会長西村清人）が結成された。前述の新聞記事で紹介されたグループのなかでは、当時、もっとも歴史の浅い会であろう。

だが、一般愛好者のいくつかの小グループが集結したものであり、技術の研究開発、初心者指導育成、菊づくりの普及など、その活発な事業活動は注目され、支部の結成もあいついだ。

当時、この種グループの高峰は北海道菊花協賛会（北海道園芸会菊花会の前身）であろう。会員はいずれも熟達した人たちで、菊づくりを伝統芸術に昇華させるため研鑽に余念がなかった。したがって、例年催されるその菊花展は、いわゆる名人芸を競うものであり、一般愛好者の出展しにくい権威あるものであった。

札幌菊花同好会は『菊花栽培上の知識交換を行い愛好者の相互親睦を計る』ことを目的とし、『毎年一回札幌菊花品評会を開催する』（会則第三・四条）ことを定め、だれもが気軽に楽しめる菊づくりをめざしていた。

さらにまた、これまでそれぞれ同志的な品評会であり地域的な展示会であった数多くの菊花展を一堂にあつめて札幌市民の関心をたかめ、妍を競う菊花を観賞してもらおうという宿願の実現を期していたのである。

**市民会館で** 昭和三十六年、札幌菊花同好会の幹部は連れ  
**菊花展ひらく** 立って市民会館を訪れた。いまは故人となられた岩田名誉会長の根回しもあり、『札幌菊花展』の会場に、当時、札幌市内随一の催し物会場であった市民会館の利用を懇請するためである。

賛意を表した市民会館は、同好会と協議の結果、外気を遮断したギャラリーを避け、会館南面のプロムナードを展示場所に選定した。

この頃、市民会館の使用は有料であった。だが、日本の伝統芸術とまで言われる菊づくりの精髓を市民の観賞に供するという、商行為をとまなわれない純粋な文化的催しであり、使用料の徴収にはためらいがあった。熟慮のすえ、青少年の情操教育に益することでもあり、市民会館を所管する札幌市教育委員会との共催により使用料規定適用の除外をはかった。

こうして、『さっぽろ菊まつり』の前身ともいふべき『第一回札幌菊花展』はひらかれたのである。

当時、最初に同好会幹事と面談し、その実現に積極的な助言と



市民会館でひらいた第2回札幌菊花展／昭和37年

協力を惜しまなかった市民会館管理係長菅 昭二主事（現西区長）こそ、のちに広報課長、観光部長として『さっぽろ菊まつり』の維持・運営に東奔西走、札幌市四大まつりに成長させた育ての親である。菊と人とまつりの奇しき因縁といえよう。

ちなみに、第一回札幌菊花展は昭和三十六年十月三十日から十一月三日までの五日間、出品点数百九十八点（出品者七十五人）をあつめてひらかれ、第二回は翌三十七年十月二十九日から十一月三日までの六日間、出品点数二百五十二点（出品者百人）と、前回を上回った。また、観賞する市民も激増し、プロムナードにただよう菊花の香りを満喫した。

# 苦難を乗りこえ四大まつりに成長

第一回さっぽろ 市民会館でひらかれた札幌菊花展は、予想菊花展はじまる をこえる好評を博した。次回を期待して待ち

わびる市民に、菊づくり愛好者が創作意欲をかきたてられたことはいままでもない。いきおい、回を追うごとに出品点数が漸増し、限られた収容能力の市民会館での開催があやぶまれた。しかし、市内随一の市民会館にかわる会場を得ることは至難である。

このころ、札幌市（経済局商工部観光課）もまた、菊花展に対する市民の高い関心に注目し、全市一本の菊花展開催の構想を検討していた。

昭和三十八年四月三日、札幌市のもとに応じ、市内の菊づくり六団体の責任者が札幌テレビ塔へ参集し、忌憚のない意見の交換をおこなった。

以後、前述の新聞記事のとおり進捗し、懸案の会場も大通西七丁目に決定した。

昭和三十八年十月二十九日から十一月五日までの八日間、都心のグリーンベルト大通公園（西七丁目）で、札幌市と菊花六団体連合（北海道菊花協賛会・札幌菊花芸術研究会・札幌菊花同好会・月寒菊花同好会・琴似菊花同好会・厚別菊花同好会）の共催による第一回さっぽろ菊花展（実行委員会会長＝原田與作札幌市長）がひらかれ、出品菊花四百五十一一点（出品者百二十人）が文化の秋を飾った。

ちなみに、主催の札幌菊花連合会は札幌、月寒、琴似、厚別各菊花同好会の合流により解体し、昭和四十一年第四回から昭和五十年第十三回に北海道園芸会菊花会が参加するまで、札幌市・札幌観光協会・札幌菊花同好会の三者が主催した。

天気しだい 日増しに寒気のきびしくなる晩秋に、屋外で催で泣き笑い し物をひらく労苦は、はるかに推測をこえるものだった。くわえて天候不順な時季である。

快晴の日は、市民の出足もきわめて快調で賑わうが、風、雨、雪、霜いずれの日も激減した。盛不況だけではない。本格的な建造物でもバラック建てでもないので、荒天の日は展示館や本部詰所の警備や補強、展示している菊花の保護がたいへんである。

仮設展示館はいずれの年も、掛け小屋式といえよう。三十八年の初回から四十年の三回までは、片屋根型で前面をビニールでおったものである。四十一年にはビニール製のカマボコ型にかえたが不評で、翌四十二年の第五回から四十八年の第十一回までは天幕式をつづけ、四十九年、会場をさっぽろ地下街へ移し、掛け小屋と天候から解放された。

当時の本部役員の備忘録をみると、その行間から大通会場関係者の労苦が偲ばれる。そのおもなものを紹介したい。

☆昭和三十八年＝片屋根小屋式前ビニール。風に弱く外観も悪い。

☆昭和三十九年＝片屋根前ビニール。風雨強く、展示小屋、本部事務所小屋の屋根が飛んだり倒壊したりする。

☆昭和四十一年＝ビニールカマボコ型。屋根ビニールで通風悪く雨溜まる。夜通し棒で（屋根を）押しあげる。花腐れでる。

☆昭和四十二年＝テント式。初めての試みで花には良いが、風が心配。

☆昭和四十七年＝テントの雨漏りがひどい。

☆昭和四十八年＝雨漏りがひどい。これらの詳細については、後述の『座談会＝二十年のあゆみ』にゆずりたい。

つくる人みる人 昭和四十二年の第五回から、これまでの『さ全体の菊まつり さっぽろ菊花展』を『さっぽろ菊まつり』に改称し、欠けていた秋の『まつり』を満たして、札幌四大まつりの

二翼をになうことになった。

ともすれば菊づくり側の立ち場から主張され運営されがちな菊花展を、つくる人とみる人の心の交流を軸に、ともに菊花を楽しむ親しもうという、いわゆる市民総参加を意図した発想の転換である。心の交流のあるところにゆたかなよろこびがあり、まつりが生まれる。『さっぽろ菊まつり』への衣がえは、全市的な菊花愛好者の拡大とこの催しの発展を期待してのことである。

翌四十三年の第六回から、会場は大通西七丁目から西八丁目へ移った。この年はまた、米アポロ八号が、人類初の月周回飛行を実現し、札幌では北海道百年記念祝典が挙行された年でもある。

さっぽろ菊まつりいちばんの朗報は、昭和四十六年第九回に光かがやく三大臣賞（文部・農林水産・運輸）を設定したことである。関係者の熱意と当時の菅観光部長の奔走によって獲得されたものであり、全国のこの種催しにもその例をみない。愛好者の菊づくりにかける意欲と情熱をかきたて、この栄冠を射とめることが、いまなお、菊づくりの夢でありぬがいでもある。

この年の十一月にさっぽろ地下街がオープンし、十二月には札幌地下鉄が営業を開始した。

#### 人気を呼んだ

老若男女を問わず人気を呼んだ菊花像は、昭

#### 菊花像の登場

和三十九年の第二回から登場（制作＝桜木正一、

赤松清松、仙崎善之助、沢田永吉）している。第五回からは、札幌菊花同好会の各支部も参加し、その出来映えを競ったが、初期のものはおしなべて歌舞伎や物語から取材したものが多かった。だが、回を重ねるごとに飽きられる傾向が見えはじめたので、やがて、その年人気をさらったテレビの主人公や世相を風刺したものが登場するようになった。その主なものは

巨人の星、花子さん（昭和44）、富士山と超特急、ゼロ式戦闘

機（昭和45）、日中友好の橋、みなしごハッチ（昭和47）、島よ

帰れ、ネス湖の怪獣（昭和48）、ゲッターロボ、マジンガーZ

（昭和50）

などで、興味深い。また、北海道百年を祝賀した開道百年の歩み（昭和43）、札幌オリンピック冬期大会を祝賀した札幌オリンピック（昭和45）、オリンピック聖火台、フィギュアスケート（昭和46）



大通西7丁目の仮設会場

も市民の関心をたかめた。

このほか、昭和四十五年の第八回に、空くじなして、特賞が懸崖、一等は大輪三本立、二等には一本仕立のあたるお楽しみ抽せん会をおこない好評を博した。

悲喜こもこも

昭和四十二年第五回に、はじめて入場者から

大通から撤退

一人二十円の協賛金（入場料）を徴収している。

この年の入場者は三万三千四百六十人をかぞえ、六十六万九千二百円の収入を得た。この入場料はその後、四十三年は大人五十円・



大通西7丁目の仮設会場

小中学生二十円、昭和四十六年は大人七十円(中学生以下は無料)、昭和四十七年には八十円と改定し、さらに四十八年には百円にあらためて百八十八万三千八百円の収入をみている。

「いうまでもなく、『市民のまつり』を標ぼうするからには、本来、無料で開放するのが望ましい。だが、特設テントのリース料をはじめ設営・複元、管理などの諸経費は年々増嵩し、毎回、その予算は逼迫をきわめていた。

また、入場者の出足は天候に左右され、直接収入に影響するた

め、関係者は神頼みならぬ空頼みに身の細る思いだった。加えて、会場が都心からやや外れているため、肝心の来観者は低迷しあまりふるわなかった。すくない来観者と財源に、大通会場のさっぱり菊まつりは、毎回、危機をはらんでいたのである。

当然、天候に左右されず、人の流れに利を得た代替会場を渴望し、はやくから関係者は血眼になって奔走していた。その間の事情と苦渋を、後述の『座談会』二十年のあゆみ』は赤裸々に語っている。

やがて、関係者の間でさっぽろ地下街が有力候補としてとりあげられたが、菊を愛する菊づくりの心情からためらいがみられ、なお、二年にわたる紆余曲折を経て、大通会場からの撤退を決定した。

昭和四十八年十月二十七日、大通会場最終の『第十一回さっぽろ菊まつり』を迎えた。この日の夕刊は、大通会場収束の模様を次のように伝えている。

晩秋に美を競う

世相ちよっぴり菊まつり

(北海道新聞/昭和48・10・27夕刊)

第十一回さっぽろ菊まつりが、二十七日、中央区大通西八丁目の特設会場で幕を明けた。

札幌市内の菊づくりから出品された一般菊花は全部で約千点。今年夏は夏の干ばつぎみの天候などがわざわいし、いくらか出来が悪かったのと、搬入日の二十五日が激しい雨に見舞われたため、総出品数は主催者側の予想を若干下回った。

この日正午、五段雷の花火とともにオープンセレモニーが行われ、ミスさっぽろも姿を見せ、平瀬市助役らが紅白のテープをカットした。

特別招待された老人ホーム稲明園、菊寿園のお年寄り約八十人がまず会場のテント内へ。ふくいくたる香りがたち込め、大輪、懸崖(けんがい)などが目を奪うばかり。また、「ネス湖の怪獣」「帰れ北方領土」など四点の菊花像も見事な出来ばえ。土曜日の午後とあって、勤め帰りのサラリーマンら菊ファンが次々と訪れ、目を細めていた。十一月四日まで。

# 菊と人との交流でゆたかな明日を

万感胸せまる 昭和四十九年十一月一日、さっぽろ地下街で  
新たな出発 はじめての『第十二回さっぽろ菊まつり』が開  
幕した。

この日午後零時四十分、オーピングセレモニーに参集した関係者は、「菊まつり」の花文字を鮮やかに浮きたたせた大型菊花像を目にし、大通会場での歳月を想い浮かべ、万感胸にせまるものがあつた。がらりと衣替えしての新たな出発に、期待と一抹の不安も交錯していた。

これよりさき、北海道新聞はその紙上で、大通会場からさっぽろ地下街へ移転した理由と、オープンにいたるまでの経緯を、札幌市民へ紹介している。その内容と、この日の夕刊を賑わした菊まつりの第一報をあわせて再録したい。

十一月一日から地下街で「さっぽろ菊まつり」

晩秋に美を競う花のフェスティバル―札幌市と札幌観光協会、札幌菊花同好会が主催の「第十二回さっぽろ菊まつり」が、十一月一日から四日間にわたり、さっぽろ地下街オーロラタウンとポールタウンで華やかに繰り広げられる。昨年までは大通西八丁目とやや中心街を外れ、しかも有料だったが、地下街での初めての開催は、より多くの市民に気軽に菊を楽しんでもらおうというねらいで、例年以上の盛り上がりが期待できそう。

菊まつりは、雪まつり、ライラックまつり、夏まつり、北海道神宮祭と並ぶ札幌の代表的なまつりだが、出品される菊は、昨年までは札幌菊花同好会の会員による出品が中心だった。ところが、これとは別に北海道園芸でもほぼ同時期に菊花展を開いていた。そこで今年は、同園芸会の菊も菊まつりに「吸収」、文字通り一本化したのが特色。

また、前回までは大通公園に大テントを設営し、この中に展示していたが、テントの借用で経費もかかるため、観覧者から入場料百円を取っていた。しかも場所が、都心部からちょっと離れ、観賞に

やってくる市民の数も限られる傾向が強かった。

こんな問題を解消し、より広い市民ぐるみの菊まつりにしたい―と考えられたのが、地下街での開催。テレビ塔下から地下鉄大通駅までのオーロラタウン、さらに大通駅から薄野までのポールタウンとすでに道路管理者の市、振興公社、開建が使用をOK、商店街の協力も得られた。

地下街では昨年、北海道園芸会が、オーロラタウンの噴水周辺で菊花展をやったが、この時は出品数約二百点、今回の菊まつりでは千点近い出品が見込まれ、テレビ塔下から薄野まで全長七百メートルをフルに利用し、通りの中央を菊の花でつなぐことになり、スケールはぐんと大きくなる。

両タウンをつなぐ大通駅コンコースには、「さっぽろ菊まつり」の文字をあしらった、縦二メートル、横十メートルの花文字菊花像も設けられ、初日には除幕式でまつりオープンを祝う。また、期間中には初めての試みとして地下街の一角に、「菊作り初心者相談コーナー」を開設するほか、ミスさっぽろによる施設への菊花プレゼントなども計画されている。

さっぽろ菊まつり開幕 地下街に六百点

第十二回さっぽろ菊まつりが一日から地下街で開催された。テレビ塔下から薄野までショッピングストリートは豪華な菊のベルトがふくいくたる香りを漂わせ、戸外の初雪も知らぬげ。市民、菊愛好家の足を止めていた。

菊まつりは春のライラック祭りと並ぶ札幌の代表的なフラワー・フェスティバル。昨年までは大通公園の西八丁目広場に仮設テントを設けて開いていたが、今回は初めて都心の地下街を会場にした。オーロラタウン（テレビ塔下―地下鉄大通駅）には懸がいが、盤景が通りの中央にズラリ。懸がいはじゅうたんを思わせる花の枝を一米ートル余りも伸ばした立派なものが多く、また、ポールタウン（大通駅―薄野）には花ピラの一枚一枚が芸術品という大輪のハチが並んで目を奪うばかり、札幌菊花同好会の会員らの「力作」で、しめ



て六百点。

この日は午後零時四十分過ぎから、大通駅コンコースで『菊まつり』の文字をあしらった大型菊花像(縦二メートル、横十メートル)の除幕式が行われ、板垣市長、今井札幌観光協会会長らがテープカット、オープンを祝った。

会場には初めての試みとして「菊作り初心者相談コーナー」も設けられ、人気を集めている。菊まつりは四日まで。

北海道園芸会の 翌五十年の第十二回から、北海道園芸会菊  
参加で内容充実 花会がさっぽろ菊まつりに参加した。同菊花

会は北海道でも長い歴史を有し、その伝統を誇るグループであり、研鑽を積んだ会員の技術は定評のあるところで、さっぽろ菊まつりの内容充実が期待された。

もともとさっぽろ菊まつりは、市内の菊づくりグループが大同団結して一本化し、その作品を一堂にあつめて多くの市民に楽しく観賞してもらうことを目的として創設されたものであり、北海道園芸会菊花会の参加は、まことによるこばしいものだった。

この年から『さっぽろ菊まつり』に冠していた回数を西暦にかえ、『75さっぽろ菊まつり』と改称した。

毎回好評の さっぽろ地下街に移った昭和四十九年第十回  
相談コーナー から、初めての試みとして『菊づくり初心者相談コーナー』を新設した。

これは初心者の育成と菊づくり愛好者の増加をねらったもので、会期中の四日間、審査員や名人級の実行委員会のメンバー数人が常時待機し、一般愛好者や初心者の相談に応じた。

培土の作り方、さし木の方法などを解説した手引きのパンフレットも用意され、わかりやすくかみくだいた指導は大好評で、毎日、五、六十人が訪れ、熱心に勉強したり、菊づくりの苦労話などに花を咲かせた。

その人気ぶりに、この相談コーナーは定着し毎回設けているが、指導者の紹介や会への加入勧奨にも役立っている。

ミスさっぽろの 『初心者相談コーナー』の特設とともに  
菊花プレゼント こばれているのが、ミスさっぽろによる切り  
花のプレゼントである。

これもさっぽろ地下街での開催を契機におこなったものであり、会場を行き交う市民は、思いがけぬプレゼントに大よろこびだった。現在ではまったく恒例化し、『まつり』とミスさっぽろのプレゼントは、切り離せないものになっている。

そのほか、市内老人福祉施設を訪問してのプレゼントをはじめ、交通事故絶滅を願って中央警察署・すすきの交番を訪問してのプレゼント、地下街各テナントと地下鉄大通駅へのプレゼントなど

枚挙にいとまがない。

痛恨きわまりない

岩田徳治会長の急逝

さっぽろ菊まつりを今日の隆盛にみちびいたのは、菊花を愛する関係者の献身的な努力によるものであるが、その功績の多くは、常に偉大な牽引者であった故岩田徳治会長に帰すべきであろう。

豪放磊落で情義にあつく、その卓越した識見と行動力は、知る



さっぽろ菊まつりの生みの親・育ての親と言われる故岩田徳治会長（右）と当時の菅観光部長（右から2人目）

人を魅了してやまなかった。苦難にみちた草創期から物心両面にわたって力を尽くされ、その発展途上で『さっぽろ菊まつり』の生みの親、育ての親とも仰ぐ指導者に去られたことは、はかり知れない損失であった。

記念すべき第二十回の開催をまえにしての急逝はまさに一大痛恨事であり、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、関係者一同いっそう結束をかためて発展につとめ、生前のご功績におこたえしたい。

岩田徳治（いわたとくじ） 明治二十七年十二月生まれ。丘珠高

等小学校卒業後土建業界に入り、昭和九年札幌村議に当選して以来、三十九年にわたる村会議長、市議、道議の公人生活をあゆむ。

昭和十五年孝子として村長表彰、三十一年市政功労者、三十八年藍綬褒章、四十一年勲四等にかがやく。

ゆたかな明日を

苦渋にみちた草創期を経ていま発展途上にあるさっぽろ菊まつりは、また、多くの課題を内蔵している。それらはいずれも、菊花を愛するための悩みでありためらいである。われわれは菊花に持ち得た愛情と情熱をこの街と市民にそそぎ、課題の解決につとめたい。

全国に類のみない地下街の菊まつりは、今日、完全に定着し、名実ともに札幌四大まつりのひとつであることを自負できるまでに成長したことはよろこばしい。

つくる人みる人が菊花を通じて心の交流をはかり、その強く太い輪をひろげることが、さっぽろ菊まつりのいっそうの隆盛をはかるてだてであろう。

いま二十年の節目を迎え、このさっぽろ菊まつりが、札幌市民のゆたかな明日をつくる一助になることをねがって、新たなる出発をしたい。

座談会



さつぽろ菊まつり二十年

# さっぽろ菊まつり20年のあゆみ

## 菊まつり昨日・今日

### 前身は市民会館で 催した札幌菊花展



**貴志** 本日はお忙しいなかをご出席いただき、まことにありがとうございます。ご承知のとおり、

第一回さっぽろ菊まつり(当時、『さっぽろ菊花展』は昭和三十八年に開催され、今年で第二十回をかぞえるにいたりました。この記念すべき第二十回を迎えることができ

ますのは、ひとえに皆様方をはじめ関係各機関のご協力の賜であり、衷心より敬意を表します。おかげをもちまして、近年は出品点数が千二百点を超え、全道でも有数の菊まつりに成長いたしました。本年は一般の出品作品のほか菊人形の展示など趣向をこらし、市民に文化と夢を与える楽しい菊まつりをとねがっております。本日は、これまで菊まつりの発展にご尽力をいただきました皆様方に二十年のあゆみをたどって想い出や苦心談などを披露していただくとともに、菊まつりに対する忌憚のないご意見やご要望をうけたまわり、いっそうの発展を期したいと存じます。よろしくお願いいたします。

**司会** 第一回さっぽろ菊花展が催された昭和三十八年は、札幌市が市民憲章を制定した年でもございます。当時、菊花展開催の機運はすでに醸成されていたことがうかがわれます。各地区や職場では菊づく

り愛好者による展示会が盛んに催され、それらが母体となりまして、昭和三十五年十一月に札幌菊花同好会が発足し、全市的な菊花展実現の口火をきったわけです。翌三十六年と三十七年の二回、同好会と札幌市教育委員会の共催で『札幌菊花展』が市民会館で開催されております。現在、四大まつりのひとつにかぞえられる『さっぽろ菊まつり』の前身であり前史とも申せましょう。この菊花展について、当時、世話役として奔走されました堀尾さんからひとつ。



**堀尾** 全市的な菊花展の開催は、私たちの宿願でした。市民会館の利用について、市教委と積極

的に折衝を重ねられた故岩田徳治会長(札幌菊花同好会)のご尽力で実現したといえるでしょう。当時、同好会の会員は五十六人でしたが、二回目には出品鉢数がふえ、回を重ねるごとに増加することが予測されました。市民会館では手狭なため大通公園に着目したのですが、屋外での設営・管理には、当然、少なからぬ予算措置が必要であり、市の全面的なバックアップが望まれたわけです。岩田会長が経済局(札幌市)に助成を懇請して快諾を得、名実ともに札幌市との共催が実現し、市民会館での菊花展は発展的に終えんしたわけです。

**間地** 当時、長い伝統のある(菊花の)『道展』が(田)さん(今井デパート)でひらかれ、回を重ねておりました。この道展は、い



わゆる菊づくりの名人たちが腕を競う場であり、一般の愛好者には参加しにくいものでした。私たちは当初、職域や地域の方々を中心として菊づくりを楽しんでおりましたが、その育成・向上をはかるためには、やはり全市民的な組織体が望まれたわけです。私どもの札幌菊花同好会は、共通の趣味である菊づくりを通じて心のふれあいをつよめ、菊花に対する愛情をたかめるとともに技術の向上をはかることを目的に結成されたものです。

この頃、私どものほかに、北海道園芸会をはじめ札幌芸術研究会や月寒地区、厚別地区、琴似地区の菊花同好会など六つの会があり、それぞれ作品の観賞会や展示会を催しておりました。これらを一本化するため、当時の長井経済局長さんの肝煎りで、三十八年四月三日、テレビ塔に各会の代表が集めて話し合いをしたわけです。もちろん、全市をあげての『札幌菊まつり』実現という趣旨には全面的に賛意を表しましたが、群雄割拠と申しましょうか、各会にはそれぞれの主張なり特質があり、なかなか足並みは揃わなかったですね。市民会館での菊花展もいろいろと紆余曲折を経て実現したわけです。当時、市民会館との折衝で私どもが最初にお目にかかったのが、本日まで出席なさっておられる菅西区長さんでした。



菅 あの時、間地さんはヒゲをたくわえられ、お若くていらした。(笑)  
市民会館は市教委の所管

で、当時、わたしは管理係長でした。市内での大きな展示会場というと市民会館よりなかったもので、ぜひ菊花展をひらかせてほしいとおみえになった。ギャラリーは二階にあっただご案内したところ、通風が十分でなく、菊花は一日ぐらいいしかもたないとおっしゃられる。外気にふれる場所が好ましいというので、北一条の王子製紙に面した通行、通風のよい南側のプロムナードをおすすめした。会館を利用する場合、従来、使用料金を支払うのですが、日本の伝統文化である菊花展を市民に親しんでいただくという有意義な催しから、お金ももらうわけにはいかん。さりとて規定の適用を無視できない。単独でお借しただけでは問題があるというのでチエをしぼった結果、市民会館との共催を思いついた。じゃあ名目上でも、市民会館を所管する札幌市教育委員会との共催にしようではないか、ということに落ち着き、三十六年と三十七年の二回、開催されたわけです。管理をしたわたしたちも、心ない人にいたずらされては困る、雨風の強い日には一部を移動しなければならぬなど、ずいぶん苦労しました。ですから、ことし二十回目を迎えた菊まつりも、わたしたちにとっては、二十二回目、というのが実感ですね。さいわいたいへん盛況でしたので、その実績から、どうせやるなら、市全体の催しにふさわしい場所と方法を再検討して発展させるべきだということになった。当時、道議だった故岩田徳治さんが奔走されて予算を獲得し、三十八年から大通公園での開催が実現したわけで

語る人

—敬称略・順不同—

《司会》



大野勝太郎 札幌菊花同好会参与  
新妻武 北海道園芸会主催北海道菊花会幹事長  
西川二郎 北海道園芸会幹事長  
国田謙芳 札幌菊花同好会副会長  
堀尾武一 札幌菊花同好会副会長  
石井光二 札幌市観光課長

す。

雨風と寒気になや  
まされた大通会場



司会 関係者のご努力  
で市民会館から大通公園  
へ進出し、主催も市教育  
委員会から札幌市になり、

名実ともに全市的な催しものとして脚光を  
あび、三十八年に第一回さっぽろ菊花展が  
ひらかれました。しかし、屋外の大通公園  
では、会場の設営や管理などにご苦労が多  
かったことと思います。国田さんから当時  
の状況をお話いただけませんか。



国田 当時、展示館は  
片屋根式でした。出品当  
日、台風に襲われ吹き飛  
ばされそうになりました

ね。あわてて柱を抱え込んだが、それでも  
持ち上げられそうなんです。展示台の菊花  
をいためるとたいへんなので下におろし、  
全員で押さえつけていました。夜、顔がひ  
やりとする。なんだろうと見上げたら雪が  
舞っている。事務所の屋根が吹き飛ばされ  
てなかったんです。また、なんとか内部を  
歩行できるようにしたいということで、北農  
資材にお願いしてビニールのかまぼこ型の  
ものになりました。ところが、雨が降るとビ  
ニール屋根なのでだんだんたるんで雨水が  
溜まる。その重みでいっそう垂れさがる。  
夜中、寝ずに、長い棒で押しあげては溜ま  
った雨水を流し落としたもんです。通路が  
舗装されていないので、雨が降ると田ん圃

のように泥の海となり、長靴でなくては歩

けない有様です。これではせっかくおいで  
になる市民の方々に申し訳がないというこ  
とで、火山灰を敷きましたよ。予算が少な  
いので、菊の手入れに猫の手も借りたいほ  
ど忙しい時間を割き、全員で展示台をこし  
らえたもんです。いちばんこたえたのは、  
寒気です。大通は昼も夜もひどく寒い。完  
全に防寒装備をして観覧者を案内するの  
ですが、それでも寒さが骨身に沁みる。二時  
間もしたら、ストーブのそばに駆け込む有  
様でした。こんなこともありましたよ。其  
の後大天幕を三棟分こしらえて使用したの  
ですが、大風が吹いたら骨組みの丸太が折  
れてしまった。それで骨組を鉄管にかえて  
もらうなど、苦勞の連続でした。

司会 開催期日を、ストーブをたくよう  
な時季からずらせなかったのでしょうか。

間地 第一回は十月二十九日から八日間、  
第二回は十一月二日から八日間でした。菊  
花は晩秋のものですから、凜乎とした気品  
を觀賞していただくには、どうしても遅い  
時季になりますね。

司会 出品状況はいかがでした。

間地 第一回は出品点数が四百五十一  
点、出品者は百二十名でした。

国田 大通会場が一番多かったのは、第  
五回（昭和四十二年）の七百八十八点です  
よ。

間地 七百八十点ぐらいが、だいぶ続い  
たね。

司会 第五回から、それまでの『さっぽ  
ろ菊花展』を『さっぽろ菊まつり』に改称



津田光夫 (社)札幌観光協会常務理事  
 貴志 功 札幌市観光部長  
 菅 昭二 札幌市西区長  
 富谷信広 (株)札幌都市開発公社総務部長  
 濱 敏 札幌生花商業協同組合理事長  
 紺谷薄夫 札幌菊花同好会理事  
 間地正雄 札幌菊花同好会参与

していますが、このネーミングについて菅区長からひとつ。

菅 四十二年から四十五年頃まで、わたしは広報課長として札幌市のPRを担当しておりました。観光行政について春夏秋冬と季節ごとに見てみると、秋がないんですね。市民が気軽に参加して楽しめる「まつり」というのは、何回やってもいいものだ。菊花展を「まつり」にしてはどうかとアドバイスした経緯があるんです。そんなことから、菊づくりする側の展覧会から市民中心の「まつり」に発想をかえるべきでないかと所管の部局で判断し、皆さんにご相談してあらためた記憶があります。これで春夏秋冬の四シーズン、ライラックまつり、夏まつり、菊まつり、雪まつりと勢揃いたわけです。

## 苦ありラクなしの 思い出いまも去来

司会 悩み多い大通会場がさっぽろ地下街に移ったのは四十九年の第十二回からですが、受け入れ側では、当初、一抹の不安をもって対応されたのではないのでしょうか。また、関係機関の許可や了承を得るためにもご苦労が多かったことと思います。主催者側からの働きかけをふくめ、その辺の事情を富谷さんからひとつ。



富谷 当時、すでに北海道園芸会さんが、地下街オーロラタウンの飲み物の河のあたりで道展を催しておられました。菊まつりについては、

地下街商店会の企画宣伝委員長で、札幌観光協会の役員もやってもらった北海道観光物産興社の清水社長さんを介して、当時の菅観光部長さんから意向打診があったわけです。それまで札幌菊花同好会さんは存じあげておりませんでしたので、当初は戸惑いましたが、菅部長さんや役員の方々の奔走で関係行政機関のご協力をいただいで実現し、事故もなく現在に至っております。全国の地下街で、通路の真ん中で菊まつりを催しているのはウチぐらいのもので、今日では大いに自負しております。これも開発局、道路、消防、警察など関係機関のご理解とご協力の賜であり、まことに感謝にたえません。

司会 北海道園芸会が一足さきに地下街を利用されていたわけですが、先見の明と申しましょうか、その経緯について、新妻さんからどうぞ。



新妻 私どもも一生懸命、会場探しをやった時代がありましたね。四十二年までで催すのが恒例化しておりましたが、以後、できなくなり、会場さがしに苦労しました。四年ほどよそでやっていました。たしか四十七年から地下街のご厚意により利用させていただいております。

司会 記録によりますと、大通会場の傷みのひどい大天幕を新調するには二千万円程度の費用が必要であり、その捻出が容易でないため地下街に着目されたようにかがわれますが、会場の移転は、経済的な理



由からだけだったのでしょか。当時、観光部長でたいへんご苦労の多かった菅区長から、当時の事情をお話しいただけませんか。

**菅** 本当に悩みつきないう大通会場でしたね。こうした催しものに苦労はつきものですが、人は集まらない、見に来てくれる人がいない、というのには弱りましたよ。天幕のリース料が毎年(毎回)百万円ほどかかる。それに展示台が必要だしいろいろ支

出が嵩む。市の補助金でまかないきれないから、それらの財源として観覧料をとらざるをえない。それで入場券を発行したものの、天幕を張って入場料をとるのはサーカスぐらいのもので(笑)、そのうえ風が吹けば屋根が飛び、雨や雪に悩まされる。底冷えのする会場だから人が集まらず、思うように捌けない。経費の全額を市の補助金でまかなうご時勢でもなかったし、市民参加の「まつり」を行政機関が丸抱えするのも好ましいことではない。大通会場ではさしそまつた課題が多く、真に市民が楽しめる「まつり」にならないと見きわめ、スポーツセンターや学校の運動場、デパートなどいろいろ物色し、地下街についても研究したわけです。そうして地下街が有力候補にあがったのですが、菊花同好会さんの方から異論がでてきてね。菊は寒中のもので、寒いところではなくては気品のある景色が保てない。地下街のような完全暖房では、半日もしたら萎れてしまう。とても観賞にたえる菊花は望めない、という拒絶反応を示され暗礁に乗りあげてしまった。しかし、大通会場では問題が多過ぎる。多少の不満はあっても地下街に移らざるを得ないのではないか。出品者側にはデ・メリットかも知れないが、市民は無料で、風が吹こうが雪が降ろうが、安心してじゅうぶん観賞できる。菊づくりに励む皆さんにとっても、多くの人々に見ていただくよるこびは、金銭にかえられないのではないかと、二年がかりで説得につとめ、ついに地下街での開催が実現したわけです。



**津田** 私は四十三年からお手伝いをさせていただき、大風の日はロープ押さえに(笑) かけつけ

たひとりなんです。当時、間地さんなど、ストーブをたき徹夜で管理するなどたいへんご苦労をされましたね。菅区長さんからお話のあった天幕のリース料、年々値上がりして対応に四苦八苦しました。入場料でなんとかカバーしていましたが、どうしても天候に左右される。まったくの興業なわけ、天気に恵まれて入場者が多い年はどうにか天幕料をかせげるが、ミゾレが降った年などはだめなんです。それで大きな赤字を背負い込んだ年がありましたよ。ところが、その赤字を補填する目安がなく、ずいぶん苦慮しました。たまたま一年きりでしたから処理できましたが、赤字が累積したらたちまち自滅してしまおう。そこで、天幕料のいらぬ場所をあちこち物色しましたよ。狸小路のアーケードやさつきお話のあったところなど、方々交渉に走り回ったもんです。ところがナマものを扱うので、どこでも受け入れてくれない。結局、天幕料分の前売券を売り捌くよりテがない。トコトコ歩き回ったが期待するだけ売れず、日は短くなるし寒いし、秋風が身に沁みたまもんでした。入場料収入がだめではまったくのお手あげで、地下街移転も、資金面の行きづまりが最大の原因でしょうね。

**菅** アーケードのある狸小路商店会は乗り気だったんだが、路上に陳列するので、万一の場合を考え、消防署は許可しなかつ



さんの反応はいかがでした。また、地下街では雨風の心配はまったくありませんが、温度・湿度の影響で、作品の管理にはご苦労があまりではないでしょうか。

**堀尾** さきほど新妻さんからお話がありましたように、一足さきに北海道園芸会さんが地下街を利用され、私もは大通でひらいていましたので、多くの市民の方々から、同じ札幌なのにあちこちで展示しているのはなぜなんだ、という率直なお声を聞き、考えさせられました。移った経緯はこれまでお話のあったとおりで、天候に左右される心配はまったくなくなりましたが、温度や湿度はやはり菊花には不向きなんですね。しかし、市民の皆さんにはたいへんよろこばれ親しまれており、私どものよるこびも倍加しました。管理に細心の注意を払って、立派な菊花を觀賞していただくようにつとめております。だいたい、大通会場の場合、あれだけの人は入ってきません。現在ではまったく定着して、さっぱ

る菊まつりは地下街の名物になっており、同時に、地下街と菊まつりは切り離すことのできない札幌名物でもあるわけです。

**司会** 菊まつりの名物のひとつに、菊花像やいろいろ趣向を凝らした展示があります。普段目にする機会が少ない市民や観光客からたいへんよろこばれております。菊花像の製作にあたっては、全面的なご協力をいただきました札幌生花商業協同組合の濱理事長さんから、その辺のお話をうかがわせていただきます。



**濱** さきほど入場料の

ことで菅区長さんからお話がありました。大通八丁目ではひらかれていた

た。それからテント屋、強かったねえ。当時、あれほど大きな天幕、北海道中探してもないですよ。いわば専売特許みたいなもので、絶対値引きをしない。最後は泣きついてくるだろうと決めているから、値上げはしても値引きには耳をかさないんですよ。赤字の年は、会長（故岩田徳治前会長）から、キミのPRはなっていない、能なしだと満座のなかで叱責されましたね。長雨がたたったのですが、天気までわたしの責任にされました。（笑）いや、発奮しましたよ。わたしども広報車に乗り込んでマイクを握りしめ、ただいま菊まつり開催中です、と札幌中、叫び回ったもんです。いまでは、いい思い出になっています。

## 全国でも例のない 地下街での菊まつり

司会 地下街に移られてからの市民の皆



ビニールのカマボコ館で反省会／昭和41年・第4回

当時、天幕のリース料が高いということは、私どもの耳にも入っておりました。たしか三十七年からだと記憶しておりますが、私どもの業界で札幌花まつり会という催しをおこない、第一回は花自動車を四台ほど運んで市中をパレードしました。年々、交通規制がきびしくなってパレードができなくなりまして、大通八丁目を借りて花の供養塔を設け、菊人形（菊花像）をつくって一日供養をしたわけです。この催しは何年か続けましたが、それを見た菊まつりの方々が、花の組合はなかなかいいことをやっている。ああいう菊花像を三つ四つこしらえて天幕の中で展示すれば人気を呼び、入場料を払ってでも観覧したいという人が大勢あつまるのではないかと着想し、乗りだしたわけです。そこで、その頃人気のあつた星飛雄馬などの菊人形を展示すると、

物珍しさもあって好評を博し、リース料をペイできるほどの入場料収入があったのではないのでしょうか。だが、回を重ねることになったようです。地下街に移られてからは、当初、入り口に五条大橋をテーマにした牛若丸や弁慶などの菊花像をつくって展示したところたいへん好評で、菊まつりの人気向上に一役買ったのではないのでしょうか。当時、私たちの組合は、組合員が七、八十人で、一週間ほど前から骨組みなどをはじめ、出品作品の搬入時には八分通りできあがったものを搬入し、夜十二時過ぎまでかかって仕上げたものです。なにせ根のない生花ですから、一週間もたせるというのはたいへんなことで、毎日、六時、七時には交替で水をかけるのに出かけ、鮮度の落ちたものとはりかえたりしました。苦勞しましたが、市民の皆さんにはたいへんよろこばれ、面目をほどこしました。

司会 人波の絶えない地下街での催しも



紺谷 苦勞といえ、やはり消防当局の理解とご協力をいただくための折衝でした。単にこちら

側の主張を押し通して説得できるものではありませんから、十分に話し合っ、両者とも納得できる万全な対策を見出すために、ずいぶん通いつづけたものです。幸い、私も消防出身で知己の方もいらしたので、たいへんご協力をいただきました。札幌市が主催するものであり、私どもも、なんとか言いくるめて許可を得ようなどとは思っておりませんでしたから、消防側から許可できる条件を明示していただきたい、私どもはその条件に応じて対策を講じましょうと誠意を示し、了解を得たわけです。おかげで大過なく今日にいたり、うれしく思っております。

### 徹夜で厳正な審査 三つの大臣賞が刺激

司会 昭和五十年の第十三回から北海道園芸会菊花会も参加されていっそう内容の充実がはかられ、名実ともに全道一の菊まつりと申しても過言ではないでしょう。参加された動機などについて、西川さんからお話しいただきたいのですが。

西川 私どもは従来、園芸会全道菊花展というのを、毎回ほぼ場所をかえておこなってきておりました。五十年頃に、札幌中



丹精の花ひらく栄冠



の菊花展を一堂に結集してはどうかというお話があり、園芸会としては、菊まつりのなかに歴史のある『全道展』の形で残していただけるなら参加いたしましょうということ、ご一緒させていただいたわけです。いまでも菊まつり会場の一区画で、全道展の形でやらせていただいております。

司会 全道展の参加によって、さっぽろ菊まつりはいっそう全道的にPRされ、今日では札幌名物のひとつにかぞえられるようになったわけですね。

津田 菅区長さんの奔走で三つの大臣賞（文部大臣賞・農林水産大臣賞・運輸大臣賞）をいただくことになったのも、菊まつり発展の大きな原動力ですね。

国田 三つの大臣賞は四十六年の第九回



からです。たいへん菊愛好者の励みになり、出品点数もぐんと増えましたよ。

**司会** 菊まつりはコンテストが目的ではありませんが、市民の関心が高くなり、それだけに出品する方々も、観賞にたえるような芸術性のある意欲的な作品をめざすわけです。丹精こめた優秀な作品がずらりと揃って競うのですから、審査にあたられる先生方には毎回まことにご苦労が多いことと存じます。審査委員長をお引き受けただいております大野先生から、審査の状況などについておうかがいしたいのですが。



**大野** 三十五年に発足した札幌菊花同好会が、市教委と共催で三十六年から市民会館で札幌菊花

展を催されたときから審査させていただいております。以来、大通会場、地下街会場とつづいているわけです。長い歲月の間には、いろいろなことやうつりかわりがあり

ました。菊づくりをなさる方々にとっては一年間の総決算ですから審査にはたいへん関心をもたれ、私も審査にあたるものは、いやしくも誤解や批判をうけないように常

づね十分自戒して、厳正な審査につとめております。しかし、愛好者の育成や技術の普遍的な向上、菊まつりの発展をはかるためにいろいろな取りきめがあり、単に作品本位の審査というわけにはいかない場合もありました。何年だったかたしかな記憶はございませんが、大通会場のころ、会の方針として、入選は一人、金賞は一点、銀賞は二点というふうに枠をはめられていたことがございます。そのため、一人のひとがすべての賞を独占するような優秀な作品をたくさん出品された場合、菊まつりの発展や技術の向上を期待して、ひとりの人に多くの賞を与えるよりも、多くの人に賞を分けてよろこんでいただく、という配慮がなされるわけです。その趣旨はまことに結構ですが、審査員としてはまことに微妙な困った立場におかれることがありました。

会員の方々はその趣旨を理解し了承しておりますが、市民の皆さんはそういう取りきめを存じておりませんから作品本位に観賞され、こんな立派な作品がどうして入賞しないのだ、だれが審査したのだ、優秀を見きわめる眼を持っていないのではないか、情実審査でないか、などという批判を耳にしたこともございます。その後、そうした誤解を生じないように、審査員の立場をご理解いただいで改善され、いまではたいへんスムーズに、安心して審査できる状態に

なりよるこんでおります。  
**司会** 新妻さん、作品の傾向やうつりかわりはいかがでしょうか。

**新妻** 同好会が発足した当時は会員も少なかったのですが、三十六年の第一回目（札幌菊花展・市民会館）には、園芸会の会員も協力して入会したりしましたので、よい作品もだいぶ見つけられました。花の傾向は、当時、戦前の大づかみとかそれに類したものが多かったですね。回を重ねるごとに質は向上しましたが、花によって長持ちしないものもあるので、四十四、五年ころから、どちらかという厚もの、厚ぼりりというようなものが目立ちはじめました。また同時に、単色よりも多色なものが華麗で目を惹きますから、皆さん非常に熱心に研究され、多くの種類の花を使いこなすテクニクを体得されました。この多彩な作品は観賞する方々を楽しませ、菊まつりの人気をいっそうたかめましたね。

**司会** なんとと言っても、三つの大臣賞が魅力なようです。菊づくりをするからには、一生に一度は大臣賞を、と心中に期し、皆さんたいへん意欲的でしたね。

**西川** そうですね。全国的にみても、三つの大臣賞がある大会はおそらくないでしょう。それに札幌の出品作品はレベルが高いので、選り抜かれて栄冠に輝いた作品は、まさに大臣賞にふさわしい立派なものです。

**津田** 審査の先生方には、お気の毒なほどご苦労をおかけしています。搬入されたその日の夕方から審査をはじめられ、翌朝のオープンまでには全部『賞』の表示をす

ませておかなくてはならない。限られた時間ですから、どうしても深夜におよぶわけです。しかも底冷えのする時季ですからたいへんですよ。菅区長さんのご指示で、熱カン(笑)をお届けしたこともありました。

**大野** 大通会場のときは、審査日を一日設けていたので日中でできましたが、地下街に移ってからは、午後四時に搬入をしめきり六時頃から審査がはじまるので、どうしても夜半までかかります。そのうえ、出入り口までの通路が長いので疲れた体にはこたえますね。

**司会** 自転車で走ろうか、という話が大ぐらいですからね。(笑)

**国田** 地下街に移ったはじめての年、夜の九時から翌朝の六時まで、一睡もせず審査しましたよ。堀尾さんも同様でしたが、いったん帰宅はするもののまた八時までに出勤しなければならぬ。一時間ぐらいも寝ましたかね。また、地下鉄東西線の工事が終わりで、工事現場の真上が事務所でした。その囲いが不十分なため寒さがきびしくて立っていられないんですよ。しゃがみ込み膝をかかえて暖をとったもんです。

**司会** 審査結果の集計も実行委員会の事務所でするんですが、やはり徹夜になりだれもが疲労困憊の態でした。審査にはたいへんな労力と体力が必要ですね。(笑)

**堀尾** 搬入が終了するとすぐ名簿をつくらないと審査ができない。これまた戦場のような慌しさですよ。

**国田** 二十回を迎えられるのも、市や観



好評だった『菊づくり初心者相談コーナー』

光協会の方々、それに会員の三者が一体となって苦難に立ち向かってきたからでしょう。ずいぶん苦勞しましたが、おかしなことに、充実した楽しい苦勞に思えるんですよ。

## よろこばれた相談コーナーとプレゼント

**司会** 大通会場でもそうでしたが、とりわけ地下街に移ってからは、観光客やそのほかの来札者もふくめ、市民参加の様相がいつそうつよまりましたね。また、初心者相談コーナーを設けたり香り高い菊花をプレゼントしたりして、大いに菊花に親しんでいたいておりますが、ただ見るだけでなく、自分もぜひ菊づくりをはじめたいと

心を動かされた方も多いようです。これらの反響について堀尾さんひとつ。

**堀尾** 地下街に移ってから、本部の前に相談コーナーを設け、審査員や菊づくりの名人の方々が相談相手をとめております。初心者にもわかるようにかみくだいて説明しておりますのでたいへん好評で、気軽に相談される方がふえています。また、『菊づくりのしおり』をさしあげておりますがすぐなくなり、一日の数量を限定しませんが期間中もたない有様です。菊づくりの普及や会員の増加にたいへん役立っていますよ。

**司会** 回を重ねるごとに盛況となり、今後、交通整理が必要になるのではないかと心配するほど人気がでてきましたが、その点、富谷さんいかがでしょう。商店会の方

から通行渋滞や妨害の苦情はございませんか。

**富谷** ポールタウンが一日約十八万人、オーロラタウンが約七万人通っています。

新しいコンコースもできましたので、通行妨害の心配はございません。ただ、当初から心配だったのは、ススキノ近くになりますと飲み屋さんが多いので、酔客にせつかくの菊が折られるのではないかということでした。それで当初から幹部の方々に、危険区域のススキノ方面には役員の方の作品を展示していただき、不幸にして折られたら、しかたがない、とあきらめていただく(笑)、初心者の方の作品はススキノから外して安全区域に展示されてはいかがですか、とお話したものです。はじめての年、たしか二本ほど折られましたよ。

**大野** 何年頃だったか、大通会場でありましたね。新聞にも大きく報道されましたよ。優秀な出来栄えのものばかりで、夜、締め切ったあとに侵入して傷めつけたのですから、きわめて悪質でした。金賞に選ばれるようなものばかりで、たしか新妻さんの作品も。

**新妻** ええ、私も被害者でした。当時、折られた作品の受賞について、間地さんがいろいろご努力くださいました。私のものはともかく、はじめて出品された方の作品もありましてね。

**間地** 被害にあわれたのは、新妻先生の作品をはじめ十一点です。審査の前でしたが、どなたが見られても銀賞以上確実な優秀作ばかりでした。さっそく幹部の方々と

相談して、せっかく丹精をこめてつくりあげた作品ですから、十一人の方々に対する

お詫びもかねて、特別に賞をさしあげようではないか、ということになりました。異論もありましたが、ともかく審査員をはじめ

役員の皆さんに、傷められた菊花をみていただき、ご配慮をねがったわけです。被害をうけた方々には内密でとりはからったのですが、私どもの誠意をおくみとりいただいたのか、十一人の方々どなたからも、憤りや管理の不手際を責める言葉はきかれませんでした。私たちにとって、それが唯一の救いであり、ありがたく思ったものです。

**国田** 私ども管理を担当していたんですが、夜はまったくの不寝番でした。会場の中だけでなく、二人組みで館外まで巡視しましたよ。

**司会** よく体がもちましたね。

**国田** 私ごとで恐縮ですが、三日連続して泊り込んだことがありますね。目の回るような忙しさで、食事まろくにとれない有様でした。四日目の晩、皆さんどうもご苦労さま、ということ一杯はじめたのですが、私はどうも体の具合が悪くて控えていました。一口飲めば元気が回復するといわれ、湯呑茶碗に底がみえるほどほんの僅か注いでもらって飲んだとたん、ふわァーとなっていました。これはいけないとハイヤーを呼んでもらい、出口までいったら昏倒し、まったくの意識不明。生まれてはじめての失神でした。血圧が五〇まで下がっていたそうです。

**大野** ほんとに、苦労話は尽きませんね

## つくる人 みる人の 心の交流が菊まつり

**司会** さっぽろ菊まつりの生みの親、育ての親と申しても過言でないのは、故人になられた岩田徳治先生でないでしょうか。岩田先生をはじめ、菊まつりを支え今日の盛況を導いてくださった、いわば陰の功労者のエピソードなどご披露いただけませんか。

**菅** すべて岩田前会長が陣頭指揮をとられて今日に至ったのですから、功績はすべて岩田前会長といえるでしょうね。あらためて岩田さんの考え方や信条を推察して補足説明するとすれば、生前の言動も考え合わせてこういうことがいえるのではないのでしょうか。従来、菊づくりをやっている人は、どちらかといえばいくぶん閉鎖的で、自分たちのカラのなかや菊づくりの立場で、品評会や展示会のあり方を考える傾向があるようです。優れた庶民政治家でもあった岩田さんは、見る人の立場になって、いろいろな懸案を解決し決断し推進されたように見受けられます。地下街へ移るにしても、利用できる駐車場はあるのか、搬入・搬出はスムーズにできるのか、高い階段の昇降はどうする、審査は徹夜であるのか、とかなかなか難問が多い。だが、一番大切なことは、見る人によるこぼれることである。つくる人はつくることがだけであり、観賞し楽しんでくれる人がおらなければ、まつりにはならない。つくる人と見る人の心の交

流があつて、はじめて『まつり』が生まれる。当然のことだが、一人でも多くの人に見てもらふことが、菊まつりの発展につながる。そのことがまた、菊まつりを心から愛して推進してこられた岩田さんの菊まつりに対する信条だつたと思います。岩田さんのご意志を体して、菊まつりの発展につとめたいものです。

**紺谷** まことに同感ですね。私たち菊づくりは、自分が丹精こめてつくつたものだから、少しでもいためないように、一分でも長持ちするようにという考えが先き立つて、見てもらふことを忘れてしまう。菊づくりの普及やまつりの発展のためにも、箱入り娘にしてしまうことを自戒したいと思つていますね。

**司会** 第二十回を迎え、いっそうの発展を期するためには、解決をもとめられている課題も多いことと思います。忌憚のないご意見やご要望をお聞かせください。

**間地** 私、十数年来役員を仰せつかつておりますが、一番感じておりますことは、部署役員の仕事を忠実に遂行するためには、自分自身の菊づくりを犠牲にしなければならぬということだと思います。まことにつらいことですが、反面、多くの人を指導育成し、その人たちの丹精こめた作品を觀賞してその成長を楽しむというよろこびも大きいものです。菊づくり、菊まつりを通じて持ち得た人間関係は、私の人生での大きな収穫であります。この人間関係のひろがりや密度がまた、菊まつり発展のバロメーターでもあると思つていますね。

**新妻** 私は過去三十五年間、菊づくりを楽しんでまいりましたが、菊づくりを熱心にやればやるほど、偏狭な人間にかえてしまふのではないかと危惧しております。あくまでも明るく楽しい菊づくりを心がけたいものです。菊まつりの問題点ですが、菊づくりの側から提起されるのは、やはり場所（会場）の問題ですね。まず、菊の出し入れが容易であること、期間中、かわらない美しい容姿で見せたいことです。また、容易に管理できることが望まれます。

現在の環境は、菊をつくる人にも菊花にも、ちょっと酷のような気がします。北海道の場合、ことに札幌周辺では十一月に入るとさうとう寒気がきびしくなりますから、どうしても暖かくて人出の多いところということになります。だが、あまり広過ぎるということも考えものです。現在、両面に展示していますが、よほどの愛好者でない限り長い通路を往復して両面を觀賞するということは望めないと思つています。一部分だけを見て全体を評価されることになるし、やはり出品者にとっては、全部見ていただきたいというのが、偽らざる願ひではないでしょうか。しかし、寒さ知らずのところでも多くの人に見てもらふには絶好の場所であり、なかなかむずかしいものですね。

**国田** 大通会場での第十一回るときですが、最終日に大雪が降って天幕の館がつぶれてしまったんですよ。その点、地下街は風が吹こうが雨が降ろうが安心しておられる。欲を言えば、何カ所かに、展示場所の案内板を掲示して欲しいですね。また、テ

レビ塔からスキノ間が非常に長いので連絡が困難です。なんとかよい連絡方法がないものでしょうか。

**富谷** 地下街で使える携帯無線がございませんので、ご利用ください。

**司会** お話は尽きませんが、この辺で終了させていただきます。観光部長よりご挨拶を申しあげます。

**貴志** 長時間にわたりまして、貴重なお話を披露いただき、まことにありがとうございます。私ども事務局といたしましても、皆さま方のお話を糧にさっばる菊まつりの発展につとめたいと存じます。今後とも、よろしくお導きくださいますようお願いいたします。

資料



歴代実行委員

◆名誉会長



板垣 武四

札幌市長  
第十一回(昭和48年)～第二十回(昭和57年)

◆名誉大会長



今井 道雄

社団法人札幌観光協会会長  
第十四回(昭和51年)～第十五回(昭和52年)

◆会長



原 田 與 作

札幌市長  
第一回(昭和38年)～第八回(昭和45年)

板垣 武四

札幌市長  
第九回(昭和46年)～第十回(昭和47年)

今井 道雄

社団法人札幌観光協会会長  
第十一回(昭和48年)～第十三回(昭和50年)

岩 田 德 治

札幌菊花同好会会長  
第十四回(昭和51年)～第十九回(昭和56年)



岩 田 德 弥

札幌菊花同好会会長  
第二十回(昭和57年)



◆副会長

板垣 武四 (札幌市助役)

石 田 文 三 郎 (雪印種苗株式会社顧問)

岩 田 德 治 (札幌菊花同好会会長)

内 田 登 一 (札幌菊花芸術研究会会長)

舟 橋 要 (社団法人札幌観光協会会長)

長 井 忠 (札幌市経済局長)

広 瀬 経 一 (札幌商工会議所会頭)

今 井 道 雄 (札幌商工会議所会頭)

奥 村 宗 信 (札幌花卉園芸市場取締役社長)

小 塩 進 作 (札幌市助役)

田 中 博 (札幌市経済局長)

沢 田 英 吉 (北海道園芸会会頭)

明 道 博 (北海道園芸会菊花会会長)

堀 北 朋 雄 (札幌市経済局長)

中 山 大 五 郎 (社団法人札幌観光協会副会長)

寺 島 伸 治 (札幌市経済局長)

■'82さっぽろ菊まつり実行委員

名誉会長 板垣 武四 札幌市長

会長 岩田 徳弥 札幌菊花同好会会長

副会長 寺島 伸治 札幌市経済局長

中山 大五郎 社団法人札幌観光協会副会長

監事 堀尾 武一 札幌菊花同好会副会長

西川 二郎 北海道園芸会幹事長

委員 石林 清 札幌商工会議所専務理事

国田 謙芳 札幌菊花同好会副会長

紺谷 薄夫 札幌菊花同好会理事長

佐々木 政吉 札幌菊花同好会副理事長

佐藤 勇 札幌菊花同好会副理事長

平賀 梅吉 札幌菊花同好会副理事長

為我井 貞秋 札幌菊花同好会副理事長

鈴木 朝之 札幌菊花同好会副理事長

新妻 武 北海道園芸会菊花会幹事長

片桐 義晴 北海道園芸会菊花会幹事

高田 精成 北海道園芸会菊花会幹事

中田 康一 札幌花き園芸株式会社専務取締役

濱 敏 札幌生花商業協同組合理事長

高橋 照男 札幌花卉生産組合長

富谷 信広 株式会社札幌都市開発公社総務部長

酒井 勇三 さっぽろ地下街商店会企画宣伝委員長

須沢 昌夫 さっぽろ地下街商店会企画宣伝委員長

粟田 勸康 さっぽろ地下街商店会事務局長

坂本 清 札幌市交通局高速電車部業務課長

貴志 功 札幌市経済局観光部長

相談役 明道 博 北海道園芸会会頭

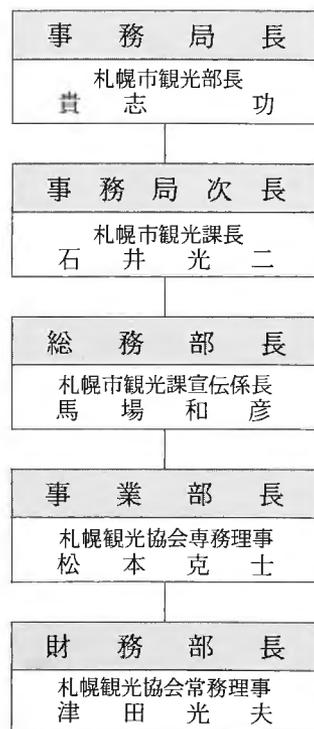
綱木 秀松 札幌花き園芸株式会社取締役社長

原 秀雄 北海道園芸会顧問

讚 良博 株式会社札幌都市開発公社代表取締役社長  
札幌地下街商店会理事長

事務局機構

■'82さっぽろ菊まつり事務局機構



要項／要領

'82さっぽろ菊まつり開催要項

一 目的

さっぽろ市民の菊に対する関心と愛情を深めるとともに菊花の鑑賞を通じて市民の文化・教養並びに健全なレクリエーションに資することを目的とする。

二 名称

「'82さっぽろ菊まつり」と称する。

三 主催

札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、社団法人札幌観光協会、札幌商工会議所、札幌菊花同好会、北海道園芸会、札幌花き園芸(株)、札幌生花商業協同組合、札幌花卉生産組合

四 後援

日本国有鉄道北海道総局、北海道新聞社、北海タイムス社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、日刊スポーツ新聞社、報知新聞社、NHK札幌放送局、北海道放送、札幌テレビ放送、北海道テレビ放送、北海道文化放送

五 協賛

札幌地下街商店会

六 会期

昭和五十七年十月三十日(土)～昭和五十七年十一月三日(水)

七 会場

さっぽろ地下街 大通コンコース

八 実行委員会の設置

さっぽろ菊まつり開催に関する基本計画の立案並びにこれに基づく行事の円滑な運営をはかるための実行委員会を設置する。

- (1) 本委員会は「82さっぽろ菊まつり」実行委員会と称する。
- (2) 本委員会の構成は菊まつり関係団体のなかから主催者代表が委嘱する委員をもって構成する。委員の委嘱は実行委員会の開催をもってこれにかえるものとする。
- (3) 本委員会には名誉会長をおくことができるものとする。
- (4) 本委員会に次の役員をおく。

会長一名 副会長若干名 監事二名

九 役員員の任期

実行委員会の役員及び委員の任期は委員会開催の日から菊まつり事業終了するまでとする。

十 事務局

実行委員会の事務を総合かつ効果的に処理するため事務局を設ける。事務局は社団法人札幌観光協会におくものとする。

82さっぽろ菊まつり実施要領

一 期間

期間は、昭和五十七年十月三十日(土)と昭和五十七年十一月三日(水)の五日間とする。

二 会場

さっぽろ地下街オーロラタウン、ポールタウン並びに大通コンコースを菊まつり会場とする。

三 一般菊花の搬入及び展示

出品者が各自係員の指示に従い搬入展示を行うものとし、搬入日時は、十月二十九日(金)九時から十二時、十三時から十六時までとする。搬入場所は実行委員が指定した場所とする。

四 菊まつり出品要領

別記

五 菊花出品作品審査

十月二十九日(金)

六 開会式

十月三十日(土) 午前十一時

七 催物

(1) 菊づくり初心者相談コーナー

市民の菊愛好の初心者を対象として、相談コーナーを設けて菊づくりの普及をはかる。

(2) 菊花のプレゼント

市民に菊花をプレゼントする。

八 菊花の搬出

十一月四日(木) 午前九時～十二時

九 菊まつり入賞者表彰

十一月八日(月) 経済センタービル 午後六時

82さっぽろ菊まつり出品要領

一 出品資格

- 名 人 (別途基準該当者)
- A 級 (経験者)
- B 級 (中位の経験者)
- C 級 (初心者)

初めて出品する市民の方はどのランクに出品してもよいが、搬入当日、受付でランクの相談をいたします。

ただし、北海道菊花会の会員が出品する場合はA級とする。

会場出品の展示については実行委員会の指示に従って展示してください。

二 出品区分

一 一般 花				競 技 花		区分	種別	仕 様	品 種	有 無
懸崖仕立	大 輪			懸崖仕立	大輪	懸崖仕立	三本仕立	三本仕立	泉郷の葵	ランク区分なし
	切花	一本仕立	三本仕立							
自 由	垂 以五尺以上	前 以五尺以下	自 由	福助仕立	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由
出品は名人・A・B・Cのうち一ランクとする	ランク区分なし	ランク区分なし	ランク区分なし(花首下50cm、ただし切り口がピンの底についていること)	首まで40cm以下)	ランク区分なし(高さは鉢底より花)	出品は名人・A・B・Cのうち一ランクとする	"	"	"	"



# 審査員／審査基準

## 82さっぽろ菊まつり審査員および担当種目

審査委員長 大野勝太郎

《◎印は班長》

- 一班 大輪 A (一本仕立・三本仕立)
  - ◎大野勝太郎 辻脇作次郎 新妻 武
  - 二班 懸崖 A・小懸崖・盆栽 A・盆景
  - ◎国田 謙芳 間地正雄
  - 三班 数仕立・切花・福助・前垂式懸崖・盆栽 B、C
  - ◎原 秀雄 西川二郎
  - 四班 大輪 B (一本仕立・三本仕立)・懸崖 B
  - ◎片桐 義晴 藤谷賢司
  - 五班 大輪 C (一本仕立・三本仕立)・懸崖 C
  - ◎村木 勝芳 左川春夫
- (競技花については全員審査)

## 82さっぽろ菊まつり審査基準

- 一 大輪三本仕立
  - (1) 鉢は九号以下とする。
  - (2) 鉢底から花首まで一六七稜(五尺五寸)以下とする。
  - (3) 天の低いものは上位に入賞できない。
  - (4) 地人の逆ものは減点する。
  - (5) 下葉の脱落がはなはだしく見苦しいもの(曲り角以下に葉がないものは上位入賞から除外する)。
  - (6) その他特にきらわれるものを列記する。
    - (イ) 三幹の分岐点あまり高く、いわゆる腰高のもの
    - (ロ) 菊の高さを揃えるため、高い方の枝を鉢の辺近くまで引き下げてあるもの(その他幹の見苦しいもの)
    - (ハ) 病害虫のあとのはなはだしいもの
    - (ニ) 過肥のため葉が幹に巻き付いているもの
    - (ホ) 葉の反転が極端に目立つもの
    - (ヘ) 葉色が特にあせたもの
    - (ト) 幹の中途を胴切りして茎葉に極端な不調和のあるもの

(ヲ) 盆養の表面から見て、幹の背後にあるべき支柱が前面にあって幹が支柱からはみ出しているものなど

### 二 大輪一本仕立

- (1) 鉢は七号以下とする。
- (2) 高さは三本仕立と同じ。

- (3) 下葉の脱落はなはだ見苦しいものは上位入賞から除外する。
- (4) その他は前記三本仕立(6)の項に準ずる。

### 三 大菊は審査当日、開花の状態が最良のもの(満開を過ぎない)が望ましい。

### 四 数仕立

従来どおり。

### 五 福助作り

- (1) 鉢は五号以下とする。
- (2) 高さは鉢底から花首まで四〇稜以下とする。
- (3) その他は大菊に準ずる。

### 六 小菊盆栽

- (1) 姿・形・花と盆栽道により審査する。
- (2) 盆栽の忌型のあるものは減点する。
- (3) 忌型は次のとおり。

- |                |         |                 |           |
|----------------|---------|-----------------|-----------|
| 1 片根、片枝        | 2 逆根、逆枝 | 3 向枝、添枝         | 4 交叉幹、交叉根 |
| 5 立枝、下枝、懐枝     | 6 重枝、門枝 | 7 蛙又            |           |
| 8 鳩胸幹、鍋づる幹及枝   | 9 心止り   | 10 ぎっくり曲り(たこ作り) |           |
| 11 さかさ幹、さかさ枝外傷 | 12 逆の相性 | 13 高根張り         | 14 寄植の本数  |

### 七 盆 景

- (1) 鉢は九〇稜以下とする。
- (2) 風景を主としたもの。
- (3) 砂・置物などを使用したもの。
- (4) 遠景は蕾に色がなくとも良いが、近景は盆栽に準ずる。

### 八 一般懸崖

- (1) A級・競技花・小懸崖仕立は分岐点より懸垂の部分の長さが上部と均整がとれていること。
- (2) 石・木・針金などの添付物があってはならない。
- (3) 姿・形・花を盆栽道により審査する。
- (4) 忌型は盆栽に準ずる。
- (5) 小菊小懸崖は分岐点より四〇稜とする(鉢六号)。

### 九 前垂懸崖

従来どおり。  
十切花

- (1) 花首下五〇釐とする。(ただし、切り口がピンの底についていること)
- (2) 支柱をつける。
- (3) その他は大輪に準ずる。

## 出品状況／入選・入賞

### ●第一回(昭和三十八年)さっぽろ菊花展

☆出品数

種別	区分	実数	種別		区分	実数
			大輪	小計		
大輪	三本仕立A組	八八	懸崖	計	A組	三三五
	B組	六九				
	C組	九二				
	計	二四九				
一本仕立A組	B組	二五	盆栽	計	C組	八〇
	C組	一三				
	計	一三				
	計	五一				
切花	二六	合計	芸術作品	盆栽	計	四五一

☆金賞受賞者

大輪の部(二本仕立)

(A組) 辻脇作次郎(首席) 田中利夫 高井政栄 (B組) 林 徳治(二点)  
うち一点首席 榎本 忠 (C組) 狩原 昇(首席) 中田孝治 塩原茂広

大輪の部(一本仕立)

(A組) 服部保王 (B組) 長多利勝 (C組) 堀尾武一  
大輪の部(切花)

加賀谷永吉

大輪の部(数仕立)

沢田永吉

盆栽の部

(A組) 村上重雄(首席) 平賀梅吉

懸崖の部

(A組) 左川春夫(二点、うち一点は首席) (B組) 為我井貞秋 (C組)  
小島勇雄(首席) 大島 元

### ●第二回(昭和三十九年)

☆出品鉢総数 五二九

☆入賞総数 一三〇

(内訳) 金賞 二〇 銀賞 四四 入選 六四

☆金賞受賞者

競技花／懸崖

為我井貞秋

競技花／大輪三本仕立

玉田小八 吉田勝雄

一般花／大輪三本仕立

(A組) 村上重雄(首席) 玉田小八 菅井周一 (B組) 長多利勝 左川春

夫 (C組) 北田賢治

一般花／大輪一本仕立

(A組) 仙崎善之進 (B組) 長多利勝 (C組) 吾妻正悟

一般花／大輪切花

河村良夫

一般花／大輪数仕立

国広鷹繁

一般花／盆栽

(A組) 村上重雄 (B組) 国田謙芳 (C組) 為我井貞秋

一般花／懸崖

(A組) 吉田清一 (B組) 間地正雄 (C組) 小島勇雄

### ●第三回(昭和四十年)

☆出品鉢総数 七二五

☆入賞総数 二二七

(内訳) 金賞 二七 推奨 一五 銀賞 四五 銅賞 九〇 入

選 五〇 努力賞 一〇

☆金賞受賞者

競技花／大輪

日下健一 唐沢一夫

競技花／懸崖

吉田清一

一般花／大輪数仕立

玉田小八 大波兼次

一般花／大輪三本仕立

(A組) 左川春夫 長井外喜雄 林 徳治 新妻 武 (B組) 池田末一

塩原茂広 国田謙芳 (C組) 平田光男 吉田清太郎 本間専一

一般花／大輪一本仕立

(A組) 服部保正 (B組) 俵谷清一 (C組) 大島 元

一般花／大輪切花

林 徳治

一般花／懸崖

(A組) 馬場岩市(首席) 吉田清一 (B組) 碓井 勇 陶山清枝 (C組)

川村繁吉

一般花／盆栽

(A組) 国田謙芳(首席) (B組) 為我井貞秋 (C組) 勝嶋元一

●第四回（昭和四十一年）

☆出品鉢総数 六九一

☆入賞総数 二六七

（内訳）金賞 四三 推奨 九 銀賞 六七 銅賞 一二五 入選 三三

☆金賞受賞者

競技花／三本仕立

伊藤博行（首席） 長多利勝 片桐義晴

競技花／懸崖

吉田清一 馬場岩市

一般花／数仕立

玉田小八（首席） 唐沢一夫

一般花／切花

松沢富蔵

一般花／盆景

梅沢勝雄

一般花／三本仕立

〔A組〕高橋武夫（首席） 日下健一 赤松清作 下村米三郎 左川春夫

〔B組〕松沢富蔵（首席） 間地正雄 加藤直治 北田賢治（C組）伊部末

平（首席）横島莊児 土田和俊 木村和二郎 小林二郎

一般花／一本仕立

〔A組〕服部保王（首席） 左川春夫（B組）松沢富蔵（C組）仙場義政

（首席） 国井秀雄

一般花／懸崖

〔A組〕馬場岩市（首席） 為我井貞秋 佐藤三蔵（B組）国田謙芳（首席）

中村繁吉 小島英雄（C組）福井正喜（首席） 松田秀男 近藤若吉

一般花／盆栽

〔A組〕国田謙芳（首席） 馬場岩市（B組）島崎 功（首席） 五十嵐正

〔C組〕市川正市（首席） 池田友彌

●第五回（昭和四十二年／この回から「さっぽろ菊まつり」に改称）

「さっぽろ菊まつり」に改称

☆出品鉢総数 七八八

☆入賞総数 一三六

（内訳）金賞 四三 推奨 三 銀賞 七一 銅賞 一一九

☆金賞受賞者

競技花／三本仕立

左川春夫（首席） 加藤真治 藤谷賢司 高橋武夫

競技花／懸崖仕立

梅沢勝雄 馬場岩市

一般花／数仕立

大波兼次 沢田永吉

一般花／切花

仙崎善之進

一般花／三本仕立

〔A級〕長多利勝（首席） 辻脇作次郎 高橋武夫 菅井周一 北沢藤七

〔B級〕藤谷賢司 金内芳太郎 渡辺 勇 仙場義政（C級）金井正喜

遠田竹蔵 川合長次郎 今滝和子 矢作辰雄

一般花／一本仕立

〔A級〕菅井周一（首席） 左川春夫（B級）大島 元（C級）高崎末吉

中田政吉

一般花／懸崖仕立

〔A級〕国田謙芳（首席） 吉田清一 馬場岩市（B級）松田秀男 近藤若

吉（C級）柴田義春 矢作辰雄 上木八千代

一般花／盆栽仕立

〔A級〕国田謙芳（首席） 馬場岩市（B級）勝島元一（C級）堀尾武一

一般花／盆景

梅沢勝雄

一般花／花壇式

高木尚夫（首席） 下村光三郎

●第六回（昭和四十三年）

☆出品鉢総数 七八八

☆入賞総数 二二七

（内訳）金賞 三六 推奨 二 銀賞 六〇 銅賞 九五 入選 三四

☆金賞受賞者

競技花／三本仕立

玉田小八（首席） 仙崎善之進

競技花／懸崖仕立

馬場岩市（首席） 梅沢勝雄

一般花／数仕立

大波兼次

一般花／切花

片桐義晴

一般花／三本仕立

〔A級〕加賀谷永吉（首席） 服部保王 左川春夫 林 徳治 辻脇作次郎

〔B級〕若本宇之吉 牧野佐二郎 山崎利夫（C級）岩田正三 山崎美治

平沢吉三郎 市川正一 安西虎次郎 森 重男

一般花／一本仕立

〔A級〕菅井周一（首席） 仙崎善之進（B級）高崎末吉（C級）小野勝雄

一般花／懸崖仕立

〔A級〕馬場岩市（首席） 為我井貞秋（B級）福井正善（C級）土本ハナ

村木勝芳 遠田竹蔵

一般花／盆栽仕立

〔A級〕勝島元一（首席）〔B級〕大島 元〔C級〕横井光一

一般花／花壇式

高木尚夫（首席） 辻脇作次郎

一般花／盆景

梅沢勝雄

●第七回 (昭和四十四年)

☆出品鉢総数 六三九

☆入賞総数 二二八

(内訳) 金賞 三四 銀賞 五九 銅賞 九四 入選 四一

☆金賞受賞者

競枝花/三本仕立

木村和三郎(首席) 高木尚夫

競枝花/懸崖仕立

吉田清一

一般花/数仕立

高橋 春

一般花/切花

木村和三郎

一般花/三本仕立

(A級) 下村米三郎(首席) 渡辺 勇 池田末一 服部保王(B級) 岩田

正三(首席) 村木勝芳 高橋勝美(C級) 加藤シマ(首席) 米沢龍一 馬

場清太郎 住吉勝明 佐々木常富 高田久蔵

一般花/一本仕立

(A級) 加藤直治(B級) 岩田正三(C級) 江渡秀造

一般花/懸崖仕立

(A級) 沢田永吉(首席) 佐藤三蔵(B級) 村木勝芳(C級) 馬場清太郎

(首席) 竹内サト 高橋勝美

一般花/前垂式

馬場岩市

一般花/盆栽仕立

(A級) 馬場岩市(B級) 安保正市(C級) 佐野生夫

一般花/花壇式

高木尚夫(首席) 村木勝芳

一般花/盆景

梅沢勝雄

●第八回 (昭和四十五年)

☆出品鉢総数 七〇一

☆入賞総数 二二五

(内訳) 金賞 三七 推奨 二 銀賞 六〇 銅賞 九二 入選 二四

☆金賞受賞者

競枝花/大輪三本仕立

高橋勝美(首席) 片桐義晴

競枝花/懸崖仕立

沢田永吉

一般花/大輪数仕立

大波兼次

一般花/大輪切花

山崎美治

一般花/大輪三本仕立

(A級) 左川春夫(首席) 辻脇作次郎 林 徳治 新妻 武 下村米三郎

(B級) 正井滝士(首席) 住吉勝明 高田久造(C級) 土屋アキ(首席)

菅 慶 荒木 武 佐藤忠五郎 佐藤登美子 荒井栄作

一般花/大輪一本仕立

(A級) 片桐義晴(C級) 金子恒利

一般花/懸崖仕立

(A級) 左川春夫(首席) 吉田清一(B級) 高橋勝美(C級) 奥本シマノ

(首席) 池崎ヤエ 蝦名末太郎 高田久造 菅 慶

一般花/懸崖仕立前垂

荒井栄作

一般花/盆栽仕立

(A級) 国田謙芳(首席) 馬場岩市(B級) 仙崎善之進(C級) 山崎美治

(首席) 今貴美雄

一般花/花壇式

辻脇作次郎

一般花/盆景

梅沢勝雄

●第九回 (昭和四十六年)

☆出品鉢総数 六四一

☆入賞総数 一八五

(内訳) 金賞 三五 銀賞 五三 銅賞 七九 入選 一八

☆金賞受賞者

競枝花/大輪三本仕立

玉田小八(首席) 荒木 武

競枝花/懸崖仕立

梅沢勝雄

一般花/大輪数仕立

橋爪孝春

一般花/大輪三本仕立

(A級) 横井 博(首席) 村木勝芳 高木尚夫 玉田小八 林 利吉(B

級) 安田虎次郎(首席) 米澤龍一(C級) 石橋ナツ(首席) 馬場常雄 高

野武雄 阿部美千男 駒形 修 高橋よしえ

一般花/大輪一本仕立

(A級) 片桐義晴(B級) 荒木 武(C級) 高野武雄

一般花/懸崖仕立

(A級) 吉田清一(首席) 馬場岩市 為我井貞秋(B級) 片桐義晴(C級)

中山ナミ子(首席) 高橋よしえ 作田政太郎 青山武雄

一般花/懸崖仕立前垂

(五尺以上) 高田久造(五尺以下) 菅 慶

一般花/盆栽仕立

(A級) 服部保王(首席) 馬場岩市(B級) 山崎美治

一般花／花壇式

山崎美治

一般花／盆景仕立

梅沢勝雄

■第十回 (昭和四十七年)

☆出品鉢総数 六八四

☆入賞総数 二二八

(内訳) 金賞 三七 銀賞 六四 銅賞 八三 入選 四四

☆金賞受賞者

競枝花／大輪三本仕立

山崎美治(首席) 藤谷賢司

競枝花／懸崖仕立

馬場岩市

一般花／大輪数仕立

橋爪孝男

一般花／大輪三本仕立

(A級) 藤谷賢司(首席) 林 利吉 片桐義晴 辻脇作次郎 石沢久治

(B級) 阿部美千男(首席) 高野武雄 荒井栄作(C級) 安達ツナ子(首席)

赤坂武雄 橋本ナカ 中野大志

一般花／大輪一本仕立

(A級) 加賀谷永吉(B級) 荒井栄作(C級) 橋本ナカ

一般花／懸崖仕立

(A級) 馬場岩市(首席) 為我井貞秋 留谷与三郎(B級) 馬場常雄(C級)

柳沢卯一 堀江フミ 馬場美津子 馬場タカ

一般花／懸崖仕立前垂

(五尺以上) 荒井栄作(首席) (五尺以下) 菅 菊子

一般花／盆栽仕立

(A級) 及川善之俊(首席) 服部保王(C級) 住吉勝明

一般花／花壇式

北沢藤七

一般花／盆景仕立

服部保王

■第十一回 (昭和四十八年)

☆出品鉢総数 四五九

☆入賞総数 二〇七

(内訳) 金賞 三七 銀賞 六〇 銅賞 八四 入選 二六

☆金賞受賞者

競枝花／大輪三本仕立

辻脇作次郎(首席) 藤谷賢司

競枝花／懸崖仕立

吉田清一

一般花／大輪数仕立

橋爪孝男

一般花／大輪三本仕立

(A級) 辻脇作次郎(首席) 藤谷賢司(B級) 高橋よしえ(首席) 遊佐重

(C級) 山崎 実(首席) 山口菊太郎 宮田啓信 成田武太郎

一般花／大輪一本仕立

(A級) 佐藤 勇(B級) 石橋ナツ(C級) 山本 文

一般花／懸崖仕立

(A級) 馬場岩市 碓井 勇(B級) 高松 広 米坂 武(C級) 打越八

重子 黒田エイ 下大沢千恵子 佐藤登美子 長井豊子

一般花／懸崖仕立前垂

(五尺以上) 馬場岩市(首席) (五尺以下) 馬場岩市

一般花／盆栽仕立

(A級) 及川善之俊(首席) 左川春夫(B級) 内田隆雄(C級) 浅沼貞雄

一般花／花壇式

辻脇作次郎

一般花／盆景仕立

服部保王

■第十二回 (昭和四十九年)

☆出品鉢総数 三三六

☆入賞総数 一六八

(内訳) 金賞 三四 銀賞 四九 銅賞 七四 入選 一一

☆金賞受賞者

競枝花／大輪三本仕立

小池忠雄(首席) 吉田 清

競枝花／懸崖仕立

伊藤芳蔵

一般花／大輪数仕立

宮田啓信

一般花／大輪三本仕立

(A級) 藤谷賢司(首席) 辻脇作次郎 金子恒利 高橋武夫(B級) 吉田

清(首席) 荒戸宗一(C級) 東田与吉(首席) 小田桐登 佐藤隆雄

一般花／大輪一本仕立

(A級) 新妻 武(B級) 安田虎次郎(C級) 能登山敏春

一般花／懸崖仕立

(A級) 馬場岩市(首席) 吉田清一(B級) 打越八重子 馬場美津子 高

田久造(C級) 石川公恵(首席) 琴似中学校園芸クラブ 宗田啓信 藤戸

益子

一般花／懸崖仕立前垂

(五尺以上) 佐藤正八(首席) (五尺以下) 山田直治 高田久造

一般花／盆栽

(A級) 馬場岩市(首席) 勝島元一(B級) 米坂 武(C級) 鈴木清治

一般花／花壇式

村木勝芳

一般花／盆景

佐藤 勇

●第十三回 (昭和五十年)

☆出品鉢総数 四六〇

☆入賞総数 二二八

(内訳) 金賞 四一 推奨 三 銀賞 六五 銅賞 九一 入選 二八

☆金賞受賞者

競技法／大輪二本仕立

高田久造 吉田 清

競技法／懸崖仕立

吉田清

一般花／大輪数仕立

高田成精

一般花／大輪二本仕立

(A級) 藤谷賢司(首席) 荒戸宗一 吉田 清 辻協作次郎 村木勝芳

(B級) 馬場清太郎(首席) 山崎 実 狩野典三 馬場常雄(C級) 佐々木政吉(首席) 四戸朝夫 齊藤丈太郎 阿部一見

一般花／大輪一本仕立

(A級) 佐藤 勇(B級) 酒井 要(C級) 坂元進一

一般花／懸崖仕立

(A級) 馬場岩市(首席) 高田久造 伊藤芳蔵(B級) 長井豊子(首席)

佐藤登美子 土本菊次郎(C級) 窪田 誠(首席) 佐々木政吉 田尾節子

一般花／前垂

(五尺以上) 山田直治(首席) (五尺以下) 陶山清枝

一般花／盆栽仕立

(A級) 米坂 武(首席) 馬場岩市(B級) 柴崎信義(首席) 金子恒利

(C級) 鈴木武(首席) 河上孫一

一般花／花壇式

大貫展敬

一般花／盆景仕立

服部保王

一般花／補助作り

石橋慶二(首席) 服部保王 片桐義晴

●第十四回 (昭和五十一年)

☆出品鉢総数 六三八

☆入賞総数 二四九

(内訳) 金賞 四一 銀賞 八二 銅賞 一〇四 入選 二二

☆金賞受賞者

競技法／大輪二本仕立

荒戸宗一(首席) 高橋武夫

競技法／懸崖

馬場常雄

一般花／大輪数仕立

西野忠士

一般花／盆景仕立

服部保王

一般花／花壇式

大貫展敬

一般花／大輪二本仕立

(A級) 辻協作次郎(首席) 荒戸宗一 村木勝芳 吉田 清 高橋武夫

(B級) 小池忠雄(首席) 東田興吉 早坂清之進 酒井 要(C級) 紺谷

博夫(首席) 工藤勝一 中野熊夫 門馬久男

一般花／懸崖仕立前垂

(五尺以上) 馬場常雄(首席) (五尺以下) 佐藤 勇

一般花／大輪一本仕立

(A級) 新妻 武(B級) 小池忠雄(C級) 門間久男

一般花／補助仕立

横内正義(首席) 能登山敏春 新妻 武

一般花／懸崖仕立

(A級) 馬場岩市(首席) 山口吉郎 陶山清枝(B級) 柳沢卯一(首席)

窪田 誠 田尾節子(C級) 及川武雄(首席) 佐藤ミドリ 菅トク子

一般花／盆栽仕立

(A級) 服部保王(首席) 米坂 武(B級) 鈴木武一(C級) 鈴木武一

(首席) 柳沢卯一

●第十五回 (昭和五十二年)

☆出品鉢総数 八七一

☆入賞総数 三四五

(内訳) 金賞 四八 銀賞 九三 銅賞 一二七 入選 六七

☆金賞受賞者

競技法／大輪二本仕立

片桐義晴(首席) 千葉英章

競技法／懸崖仕立

窪田 誠

一般花／大輪数仕立

米子なみ

一般花／大輪二本仕立

(A級) 小関哲宏(首席) 高橋武夫 酒井 要 石沢久治 片桐義晴 早

坂清之進(B級) 四戸朝夫(首席) 阿保一見 山本貞夫 齊藤丈太郎(C

級) 山口 充(首席) 米子なみ 棟方文彦 小川軍治

一般花／大輪一本仕立

(A級) 高橋武夫(首席) 佐川春夫(B級) 橋本ナカ(C級) 千葉英章

一般花／補助仕立

門馬久男(首席) 棟方文彦 片桐義晴 横井 博 酒井 要

一般花／前垂

(五尺以上) 伊部光男(首席) (五尺以下) 馬場美津子

一般花／懸崖仕立

(A級) 奥本シマノ(首席) 澤田永吉 高松 広 窪田 誠(B級) 早坂

清之進(首席) 土本ハナ(C級) 石川竹子(首席) 大久保博

一般花/小懸崖

片桐義晴(首席) 馬場常雄

一般花/盆景

平賀梅吉

一般花/盆栽仕立

(A級) 平賀梅吉(首席) 服部保王 (B級) 鈴木清治 (C級) 松本郁夫

(首席) もみじ台中学校園芸クラブ 相沢藤永

### 第十六回 (昭和五十三年)

☆出品鉢総数 九九〇

☆入賞総数 三三〇

(内訳) 金賞 五二 銀賞 一〇二 銅賞 一五〇 入選 二六

☆金賞受賞者

競技花/大輪二本仕立

菊地順一(首席) 米子なみ

競技花/懸崖

碓井 勇(首席)

一般花/大輪数仕立

大波兼次

一般花/大輪二本仕立

(A級) 高野武雄(首席) 岩田正三 佐藤隆雄 柴崎信義 菊地順一 柴

田市蔵 (B級) 紺谷博夫(首席) 佐々木明光 米子なみ (C級) 山崎由美

子(首席) 伊藤 静 金田修三 横内正義 野崎謙敬

一般花/大輪一本仕立

(A級) 荒戸宗一(首席) 高木尚夫 (B級) 米子なみ (C級) 矢野康治

一般花/補助仕立

酒井 要(首席) 早坂清之進 片桐義晴 小池忠雄 村木勝芳

一般花/懸崖仕立

(A級) 窪田 誠(首席) 高田久造 高松 広 (B級) 佐藤隆雄(首席)

石川竹子 (C級) の場迪子(首席) 佐藤ときよ

一般花/小懸崖

高田久造(首席) 伊藤芳蔵

一般花/前垂

(五尺以上) 武藤 浩(首席) (五尺以下) 馬場美津子

一般花/盆栽

(A級) 平賀梅吉(首席) 左川春夫 米坂 武 (B級) 相沢藤永 (C級)

伊藤 静(首席) 野村あゆみ 米子なみ

一般花/盆景

服部保王

### 第十七回 (昭和五十四年)

☆出品鉢総数 九八〇

☆入賞総数 三二七

(内訳) 金賞 四八 銀賞 九三 銅賞 一五五 入選 三一

☆金賞受賞者

競技花/大輪二本仕立

小池忠雄(首席) 村木勝芳

競技花/懸崖仕立

窪田 誠(首席) 馬場常雄

一般花/大輪数仕立

土橋慶子

一般花/大輪二本仕立

(A級) 片桐義晴(首席) 小池忠雄 四戸朝夫 村木勝芳 (B級) 金田修

三(首席) 渡辺長一郎 矢野康治 (C級) 関川芳子(首席) 石本敏男 長

谷川文作 伏見中学校園芸クラブ

一般花/大輪一本仕立

(A級) 左川春夫(首席) 片桐義晴 (B級) 武部忠一 (C級) 土橋常太郎

一般花/補助仕立

片桐義晴(首席) 竹田正雄 小関哲宏 早坂清之進 前田嘉光

一般花/切花

棟方文彦(首席) 片桐義晴

一般花/前垂

(五尺以上) 菊地順一(首席) 武藤 浩(五尺以下) 佐坂芳明

一般花/懸崖仕立

(A級) 窪田 誠(首席) 高松 広 平賀梅吉 伊藤芳蔵 (B級) 内田隆

雄(首席) (C級) 千葉英章(首席) 土橋慶子

一般花/盆栽

(A級) 勝島元一(首席) 服部保王 相沢藤永 (B級) 品川義美 (C級)

佐々木百代(首席) 大沼敏明 伏見中学校園芸クラブ

一般花/小懸崖

平賀梅吉(首席) 伊藤芳蔵

一般花/盆景

平賀梅吉

### 第十八回 (昭和五十五年)

☆出品鉢総数 一一二〇

☆入賞総数 三三七

(内訳) 金賞 五四 銀賞 一〇九 銅賞 一五六 入選 二八

☆金賞受賞者

競技花/大輪二本仕立

金田修三(首席) 四戸朝夫

競技花/懸崖仕立

柳沢卯一(首席) 越田哲男

一般花/大輪数仕立

及川善之俊

一般花/大輪二本仕立

(A級) 菊地順一(首席) 清水敏男 片桐義晴 東田与吉 (B級) 伊藤

静(首席) 小川軍治 石本敏男 (C級) 高山由己(首席) 斉藤光幸 米澤

賢 間藤 楞

一般花/大輪一本仕立



〔A級〕平賀梅吉(首席) 清水敏男〔B級〕能登山敏春〔C級〕間藤 楞  
〔首席〕 小泉幹雄

一般花/福助仕立

片桐義晴(首席) 片桐 知 米子なみ 酒井 要 阿部義孝 荒戸宗一

一般花/切花

齊藤文太郎(首席) 五十嵐秋男

一般花/前垂

〔五尺以上〕武藤 浩(首席) 砂川茂吉(五尺以下) 高田精成

一般花/懸崖

〔A級〕窪田 誠(首席) 高田久造 平賀梅吉 碓井 勇〔B級〕矢野康

治〔C級〕浅沼ミチ(首席) 伏見中学校園芸クラブ 大沼敏明

一般花/盆栽

〔A級〕勝島元一(首席) 品川義美 松本郁夫 平賀梅吉〔B級〕久末栄

〔C級〕伊藤雅夫(首席) 戸川秀男

一般花/小懸崖

松本郁夫(首席) 片桐義晴

一般花/盆景

服部保王

小学生コーナー

中南淳子(首席) 中村知子

### 第十九回(昭和五十六年)

☆出品鉢総数 一、二一〇

☆入賞総数 三三三

(内訳) 金賞 五七 銀賞 一二五 銅賞 一四二 入選 二九

☆金賞受賞者

競技花/大輪三本仕立

金田修三(首席) 片桐 知  
競技花/懸崖仕立

窪田 誠(首席)

一般花/大輪数仕立

及川善之俊(首席) 山崎 実

一般花/大輪三本仕立

〔A級〕紺谷博夫(首席) 赤坂武雄 菊地順一 村木勝芳 石沢久治〔B

級〕間藤 楞(首席) 高山由己〔C級〕大久保嘉子(首席) 井村信芳 菅

トク子 笹川忠夫 喜瀬幸夫

一般花/大輪一本仕立

〔A級〕柳沢卯一(首席) 村木勝芳 平賀梅吉〔B級〕伴 栄子〔C級〕

小林正孝(首席) 下平澄子

一般花/福助

棟方文彦(首席) 越田哲夫 村木勝芳 伏見中学校園芸クラブ 佐坂芳明

荒戸宗一 片桐 知

一般花/切花

片桐義晴(首席) 阿部義孝

一般花/懸崖

〔A級〕碓井 勇(首席) 矢野康治 中山与市 松川 武 高田久造〔B

級〕佐々木政吉 伏見中学校園芸クラブ〔C級〕小林正孝(首席) 芳賀正

孝 山口キ又

一般花/小懸崖

松本郁夫(首席) 伊藤芳蔵

一般花/前垂

〔五尺以上〕米子なみ(首席) (五尺以下) 馬場美津子 馬場常雄

一般花/盆栽

〔A級〕下沢満子(首席) 石沢久治 勝島元一 平賀梅吉〔B級〕伊藤雅

夫(首席) 山内賢吉〔C級〕高山由己(首席)

一般花/盆景

相沢藤永

●さつぼろ菊まつり  
年譜

第1回 行 記  
S38.9.1

年次	回数	会期	会場	出品数	主 な で き ご と
昭和38年 (二六三)	1	10月29日～11月5日 (八日間)	大通西七丁目	四五一点 一一〇人	。名称「さつぼろ菊花展」。主催「札幌市・札幌菊花同好会」。 。展示館は片屋根式前ビニール
昭和39年 (二六四)	2	10月2日～10月8日 (七日間)		五二九点 一四二人	。菊人形(菊花像)会場を飾り大好評 。風雨強く本部事務所、展示館の屋根が飛ぶ
昭和40年 (二六五)	3	10月31日～11月7日 (八日間)		七二五点 一三五人	。種目に盆景追加 。『菊のしおり』配布 。夜、侵入者があり優秀作品十一點損傷される。本部役員徹夜で不寝番
昭和41年 (二六六)	4	10月30日～11月6日 (八日間)		六九一点 一三六人	。ビニールカマボコ型。通風が悪く花腐れでる 。悪天候がつづき雨漏れあり 。菊人形、札幌菊花同好会五支部が出展 。菊にちなんだ俳句募集(毎日新聞協賛)
昭和42年 (二六七)	5	10月29日～11月5日 (八日間)		七八八点 一五六人	。『さつぼろ菊まつり』と改称、札幌市の四大まつりとなる 。テント式にかえる 。種目に花壇式追加 。協賛金(観覧料)制とする。一人二十円(三三、四六〇人)
昭和43年 (二六八)	6	11月2日～11月10日 (九日間)	大通西八丁目	七八六点 一八四人	。会場、大通西八丁目へ移る 。開道百年・札幌創建百年祝賀展示(菊花像) 。二号館で民芸作品展示
昭和44年 (二六九)	7	10月31日～11月9日 (十日間)		七五九点 一七六人	。入場料「大人五十円・小中学生二十円(総収入一、九〇一、〇〇〇円)」 。「巨人の星(星飛雄馬)」「象の花子さん」の菊花像登場 。入場料総収入一、四五五、〇〇〇円
昭和45年 (二七〇)	8	10月30日～11月8日 (十日間)		七八一点 一八八人	。札幌オリンピック冬期大会祝賀展示(菊花像) 。抽せん会をおこなう。特賞は懸崖あたる 。入場料「大人五十円・小人二十円
昭和46年	9	10月29日～11月7日		六八一点	。文部・農林水産・運輸の三大臣賞を設定

《参考》  
第一回札幌菊花展 昭和36・10・30～11・3(5日間) 市民会館 出品「一九八点・七五人 札幌教育委員会・札幌菊花同好会」  
第二回札幌菊花展 昭和37・10・29～11・3(6日間) 市民会館 出品「二五三三・一〇〇人 札幌教育委員会・札幌菊花同好会」

(一九七二)	昭和47年	10	10月28日～11月4日 (八日間)	札幌オリピック冬期大会祝賀展示(菊花像) 。入場料!! 大人七十円
(一九七三)	昭和48年	11	10月27日～11月4日 (九日間)	。十周年記念祝賀会開催(11月5日) 。老人ホーム菊寿園、長生園、慈恵会の老人招待 。天幕の雨漏りがひどい 。入場料!! 大人八十円・小中学生は無料 。抽せん会をおこなう
(一九七四)	昭和49年	12	11月1日～11月4日 (四日間)	。菊寿園、稲明園、長生園の老人百人を招待 。天幕の雨漏りがひどい 。入場料!! 大人百円(総収入一、八八三、八〇〇円)
(一九七五)	昭和50年	13	11月1日～11月4日 (四日間)	。会場、さっぽろ地下街へ移る 。この回から初心者相談コーナーを設ける 。この回からミスさっぽろによる菊花のプレゼントはじめる
(一九七六)	昭和51年	14	10月30日～11月3日 (五日間)	。『75さっぽろ菊まつり』と改称。北海道園芸会菊花会が参加(共催) 。種目に補助作りを追加 。交通事故絶滅を願ってミスさっぽろと関係者が中央警察署、すすきの交番を訪問し菊花をプレゼント
(一九七七)	昭和52年	15	11月3日～11月6日 (四日間)	。地下街各テナント、地下鉄大通駅へ菊花をプレゼント 。観覧者百九十四万人(都市開発公社調べ)
(一九七八)	昭和53年	16	11月2日～11月5日 (四日間)	。名人五人を認定しコーナーを設けて模範展示 。観覧者百六十二万人(都市開発公社調べ)
(一九七九)	昭和54年	17	11月1日～11月4日 (四日間)	。ミスさっぽろと関係者、市内老人福祉施設を訪問し菊花をプレゼント 。菊花像『宇宙戦艦ヤマト』に人気あつまる
(一九八〇)	昭和55年	18	11月1日～11月4日 (四日間)	。琴の生演奏をバックにテープカット 。いけ花(大花)三基を展示 。老人ホームへ菊花プレゼント
(一九八一)	昭和56年	19	10月31日～11月3日 (四日間)	。はじめて小学生コーナーを設け、新川中央小学校児童の大輪九十五点を展示 。菊花像『忠臣蔵』お整頓平道行き場』好評
(一九八二)	昭和57年	20	10月30日～11月3日 (五日間)	。過去最高の出品数を記録 。防煙加工の白布、スチール製の陳列台を使用 。さっぽろ菊まつり第二十回を迎える
(一九八三)	昭和58年	21	10月30日～11月3日 (五日間)	。『菊づくり初心者相談コーナー』の設置、ミスさっぽろによる『菊花プレゼント』を予定 。記念誌『二十年のあゆみ』刊行

あとかぎ



札幌市経済局長  
寺島 伸治

温故知新『故きを温ねて新しきを知る』という言葉があります。

最近、各方面で昔（歴史）を記事にする傾向が増えて参りました。

たいへん喜ばしいことと存じます。

さてこの度、菊まつり関係者の労苦を偲びその足跡の万分の一でも記したいと考え、さっぽろ菊まつり二十年記念誌を発刊することとなりました。

紙数と時間が限られ、深い掘り下げをできなかったことが心残りではありますが、本書の編集にあたって多くの方々からご助言とご協力をいただいたことに改めて厚くお礼を申し上げます。

昭和五十七年十一月



さっぽろ市  
57-1-039

■さっぽろ菊まつり二十周年記念誌  
**二十年のあゆみ**

昭和57年10月31日印刷／昭和57年11月5日発行  
発行〓札幌市

編集〓札幌市経済局観光部  
札幌市中央区北一条西三丁目  
電話〓(0)11-221-1376

印刷〓三陽印刷株式会社



**1982**